



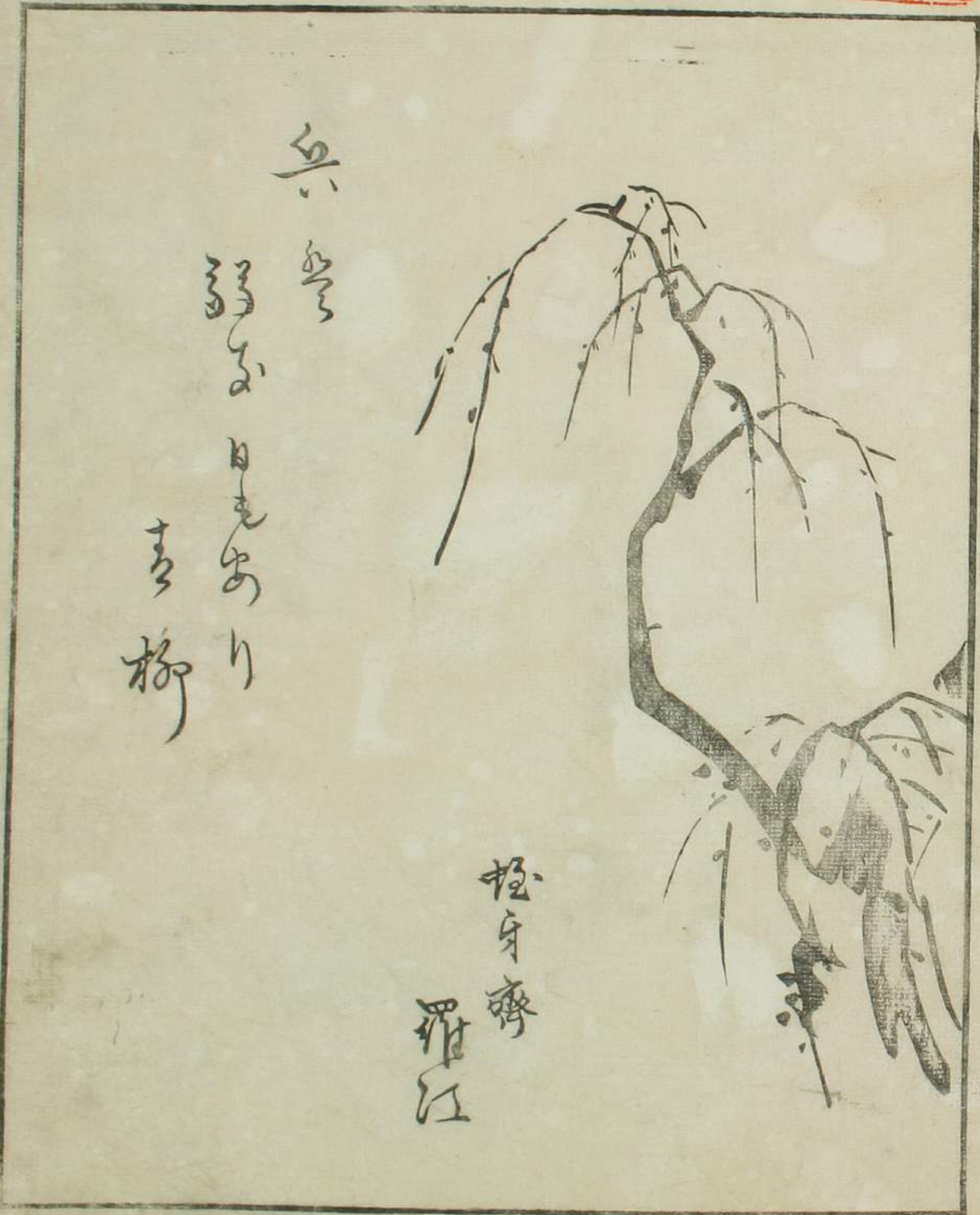
龍
 子
 可
 句

特別
 ~ 5
 6481



夫仇家之來也幸平紀
 河集錄之一種松永貞德在
 其遊戲平仇中幸於詞
 人畫額之辭類世之志
 以人某遂坐不七音不
 曰太即不句其細雅
 而能之一種也





松身齊
羅江

與
日長安
喜柳

彼而吾為尚不在斯乎羅人
其人如吾嘆其美柳之華
塞尔云尔

佩榮堂主人

名目也

浪打

像

丁
木
毛



輝
風



數
花
下
好
不

此橋之鼓
多川
拍
山
之
柱

分
院
桂
改

東
龍
園

短冊
 遊女農
 詩あり
 や万

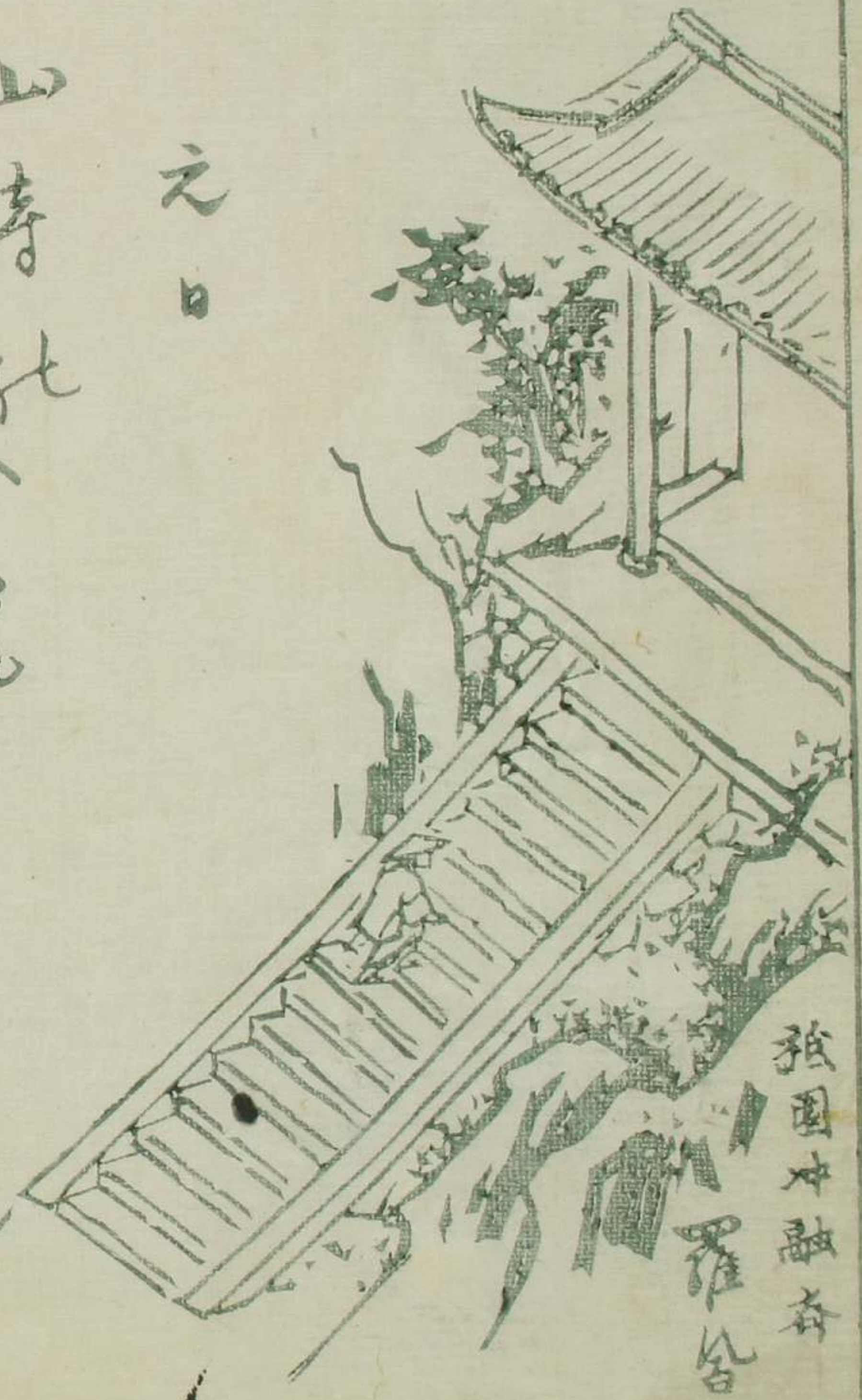
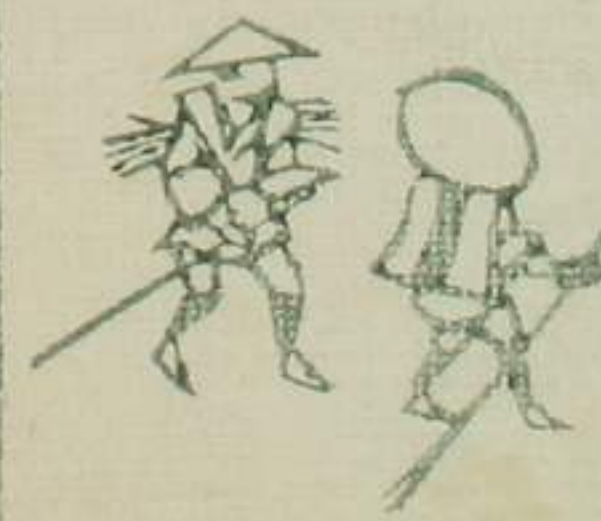
勿疑齋
 翔鳥



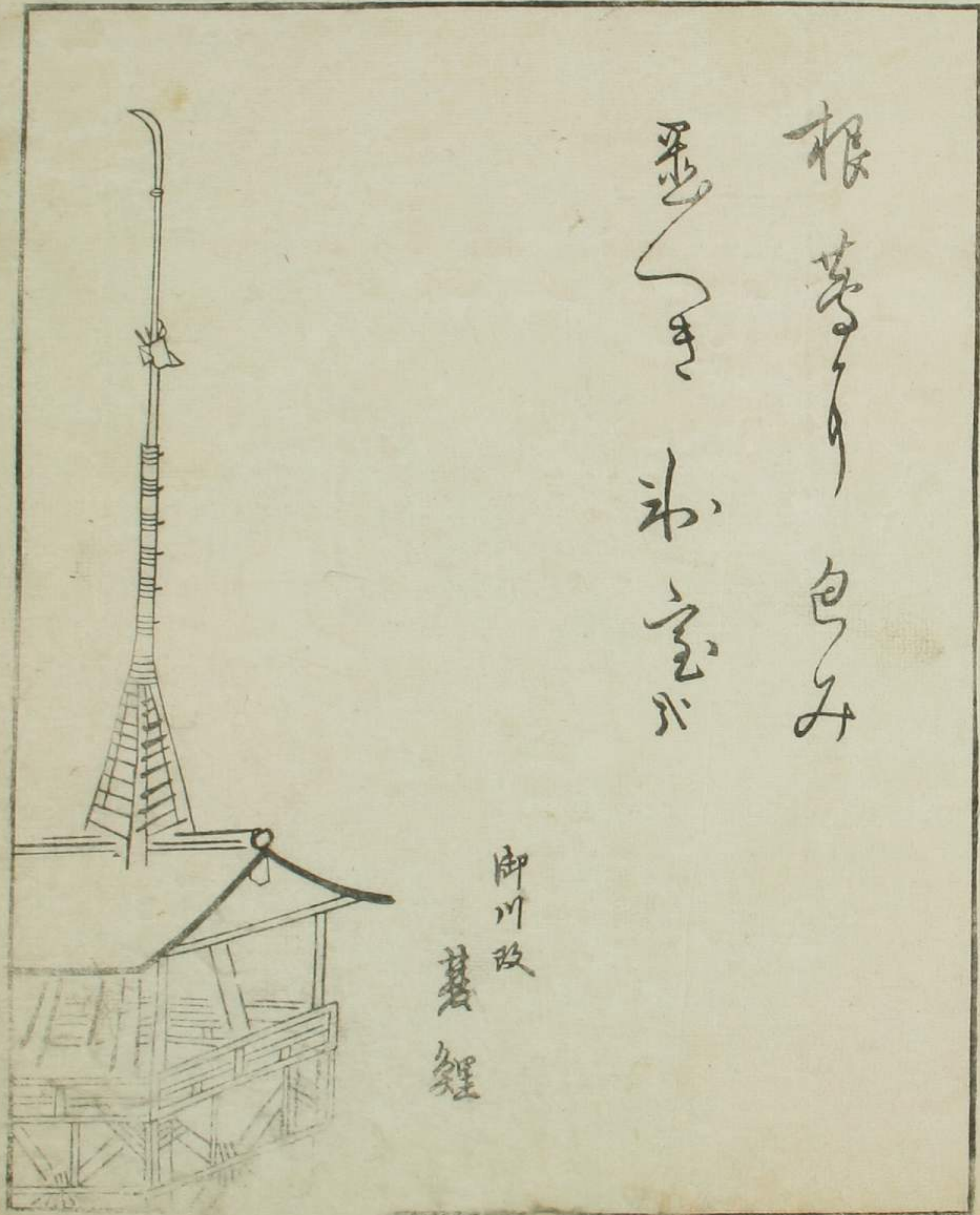
元日

山寺
 孔入
 お

はらけ
 ぬき



強國中融奇
 羅合



根葉の白み
 悉く水に
 流る

御川改
 甚經



邯鄲

其の
 基の
 深さ
 未
 知

夏涼亭
 朝山



出
か
る
学
ハ

満

干

所
多
故

博
浦



畫
市

青
々
々
々
々
々
々
々
々
々

杜
館

彩
風
樓

羅
舟





てゐるゝゝて

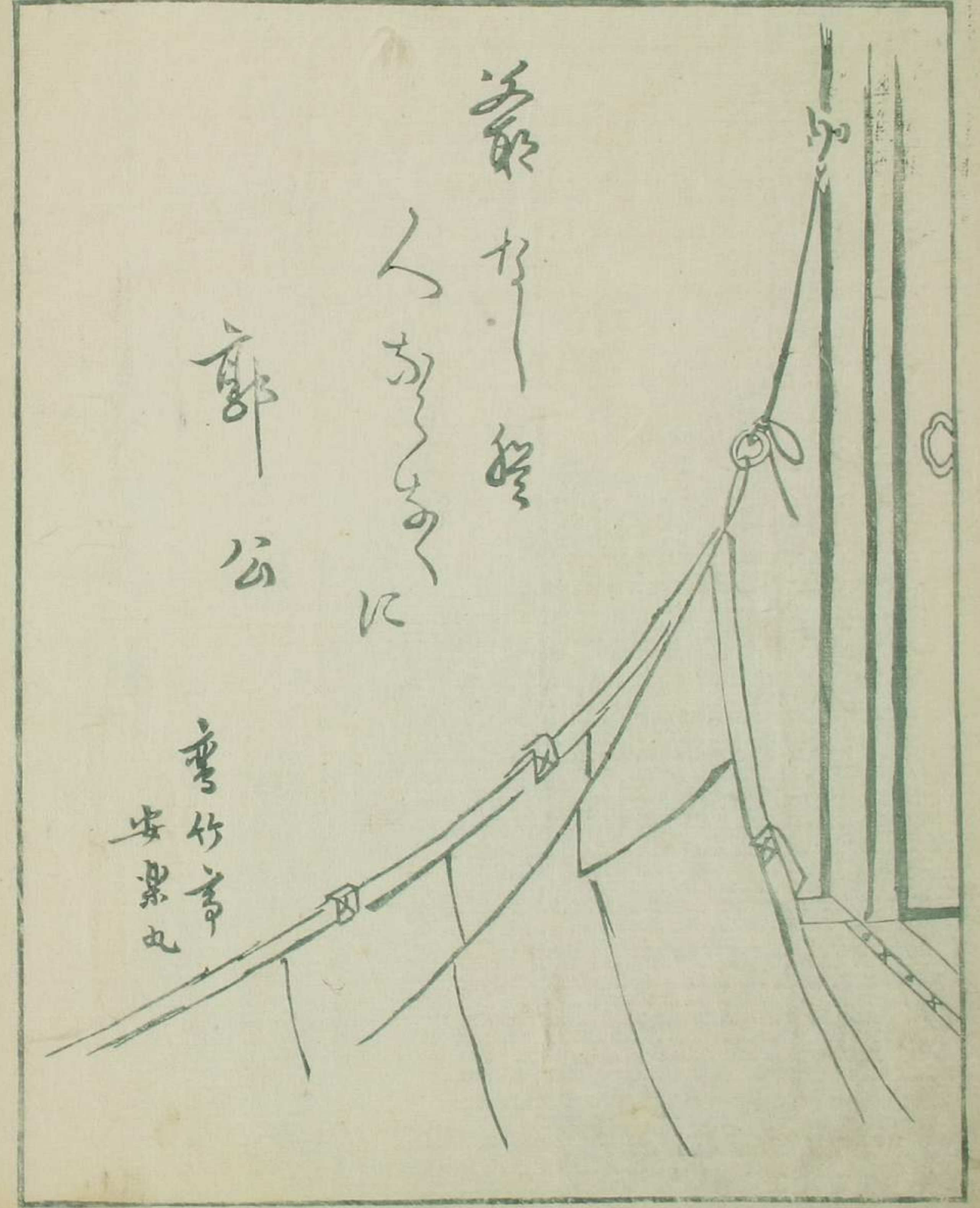
織

ひ

編

う

廿年地羊



新

人

部公

重竹亭
安景也

我
字
乃

以
係
死

字
教
せ
と

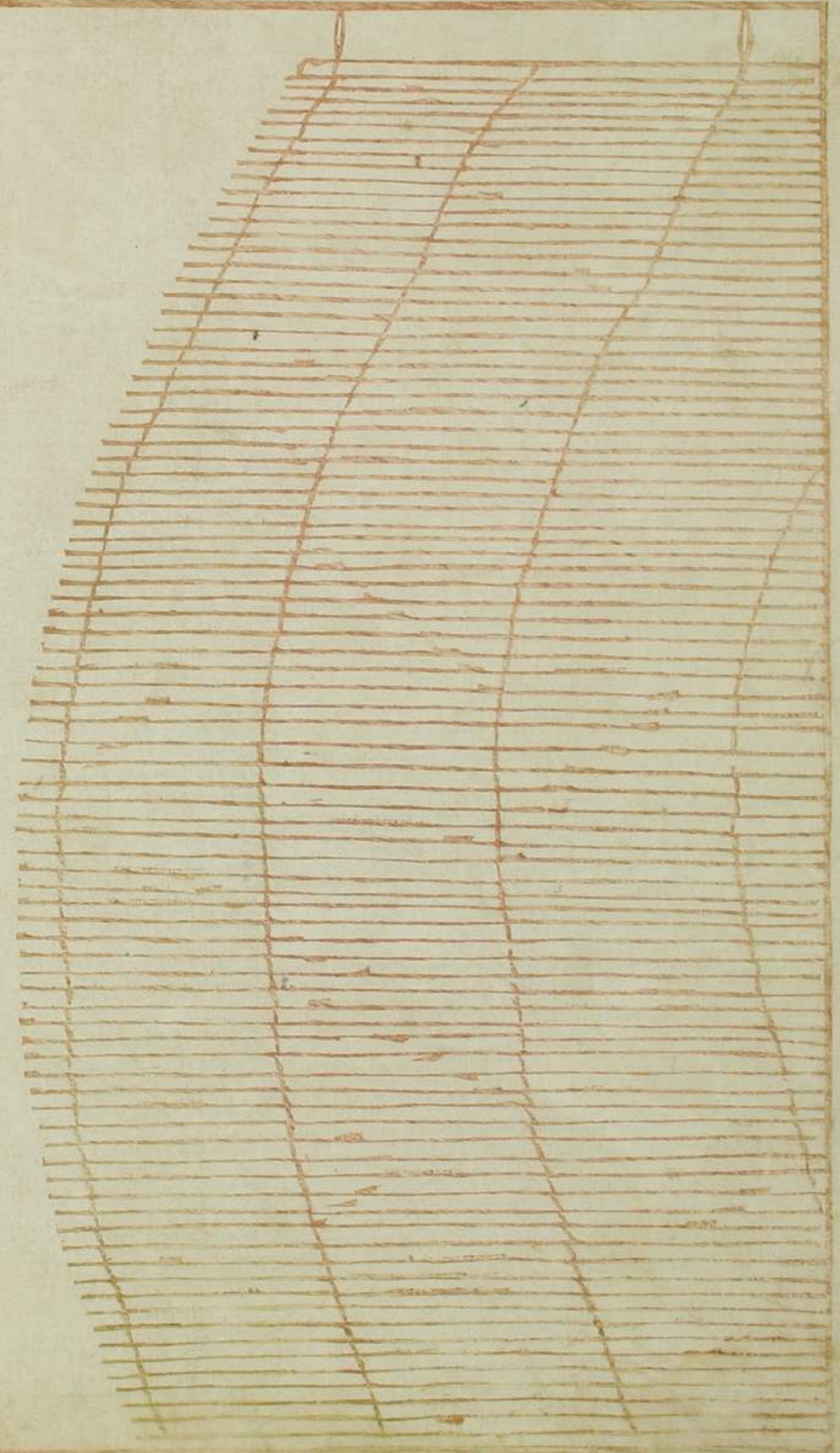
梅
乃
字
乃

少年
七兄



中
養
丸
乃
字
乃
神
乃
乃

陽
乃
園
乃
乃



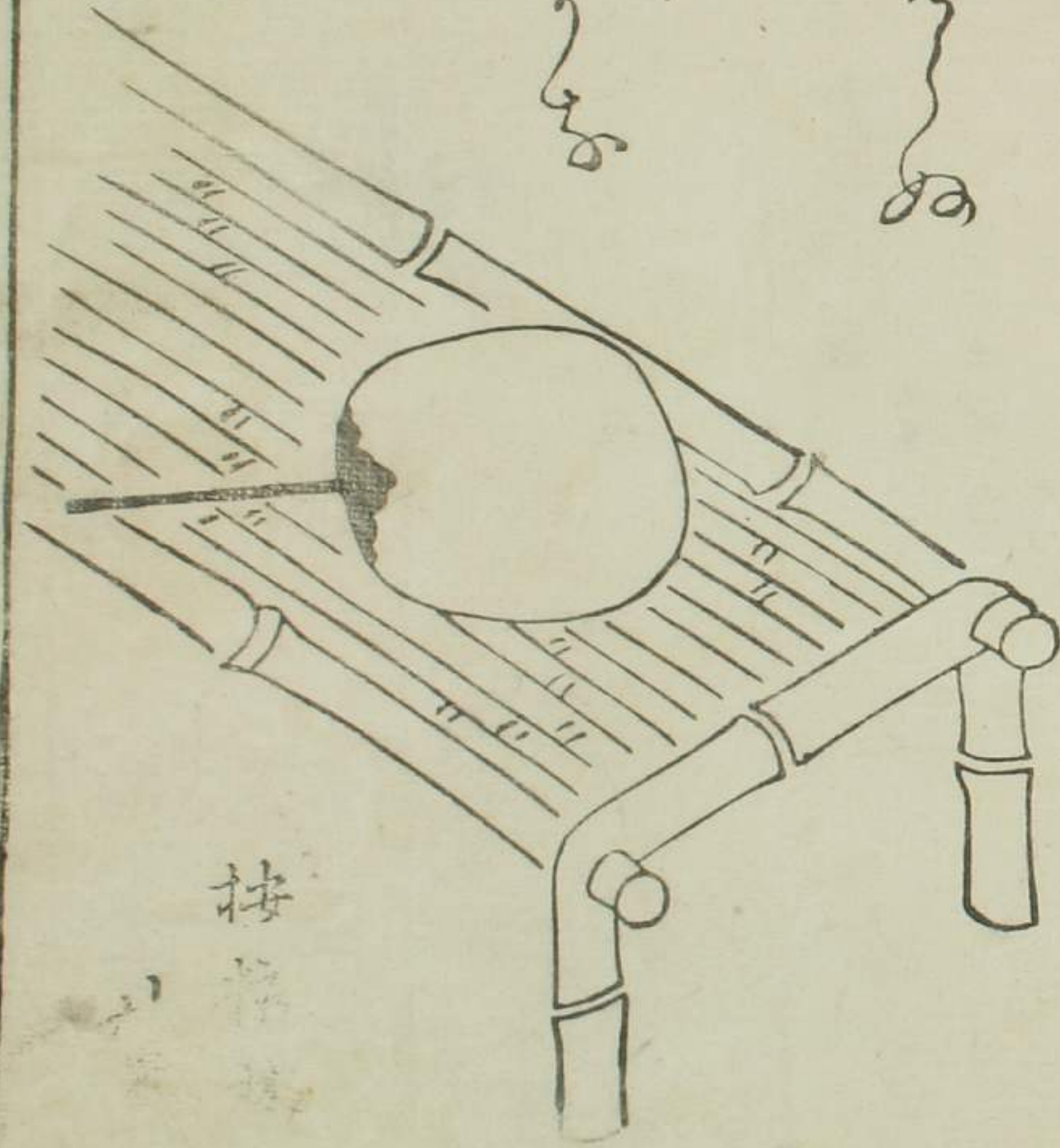
昔茶ハ

初

茶

茶

茶



按

人

茶

茶

茶

茶

小年
梅





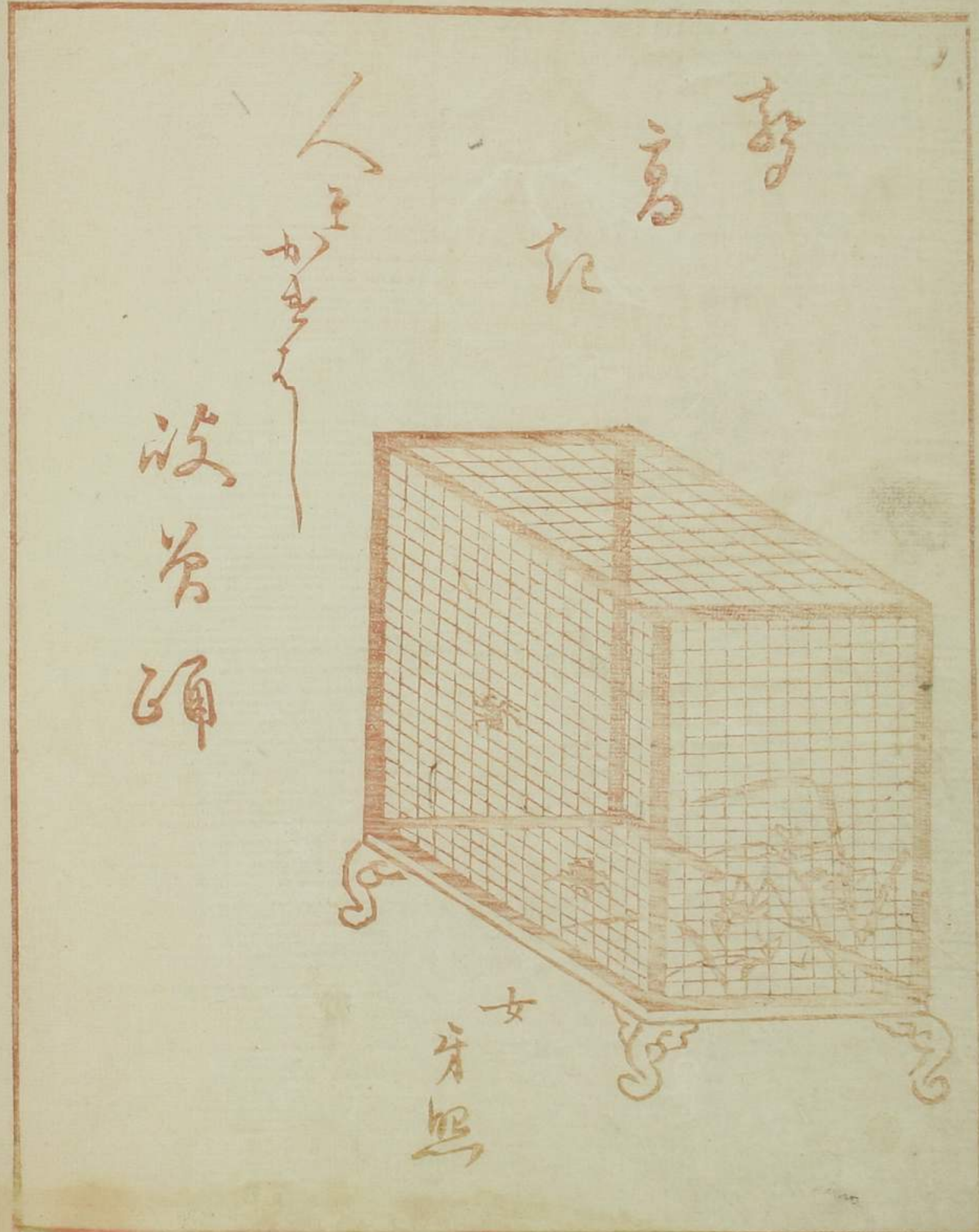


朱雁亭
 芳

朱雁亭
 芳

朱雁亭
 芳

朱雁亭
 芳



朱雁亭
 芳

朱雁亭
 芳

朱雁亭
 芳

朱雁亭
 芳

あしき木
か

鶯の
春
乃て
次

三日
卯月



梅
雪
初
沙
雪

喜
風

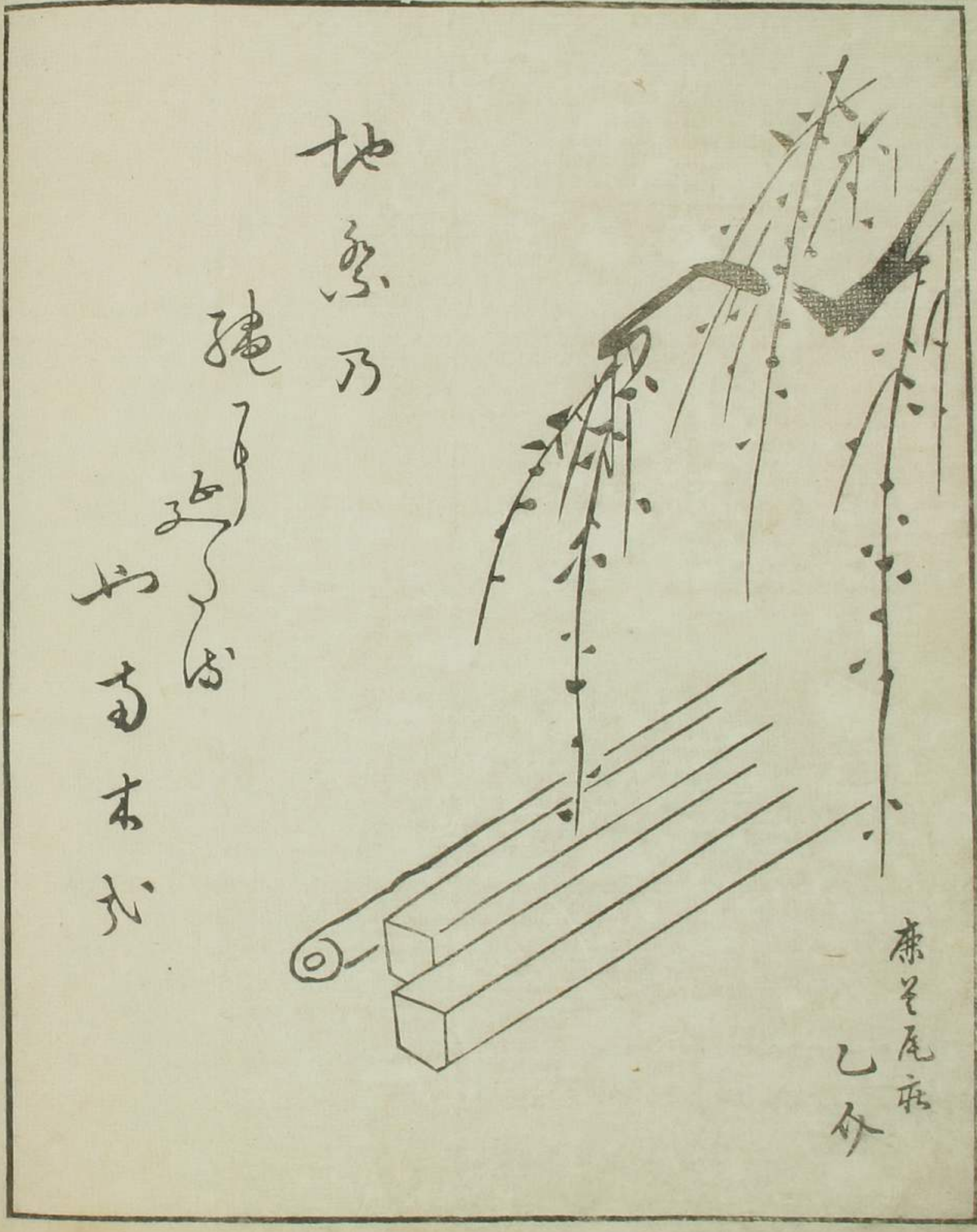
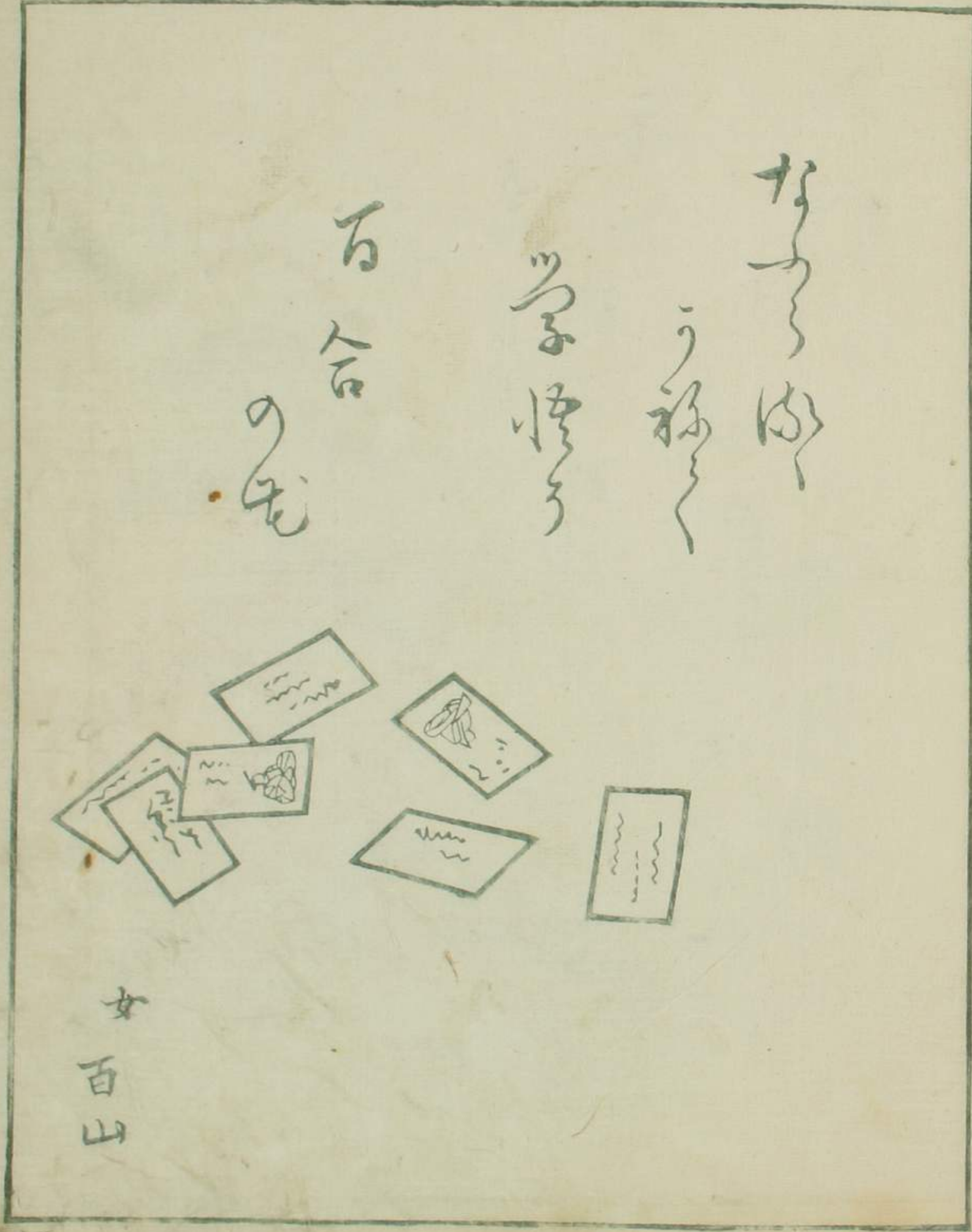
吹く
か

山
の
吹
ひ
乃

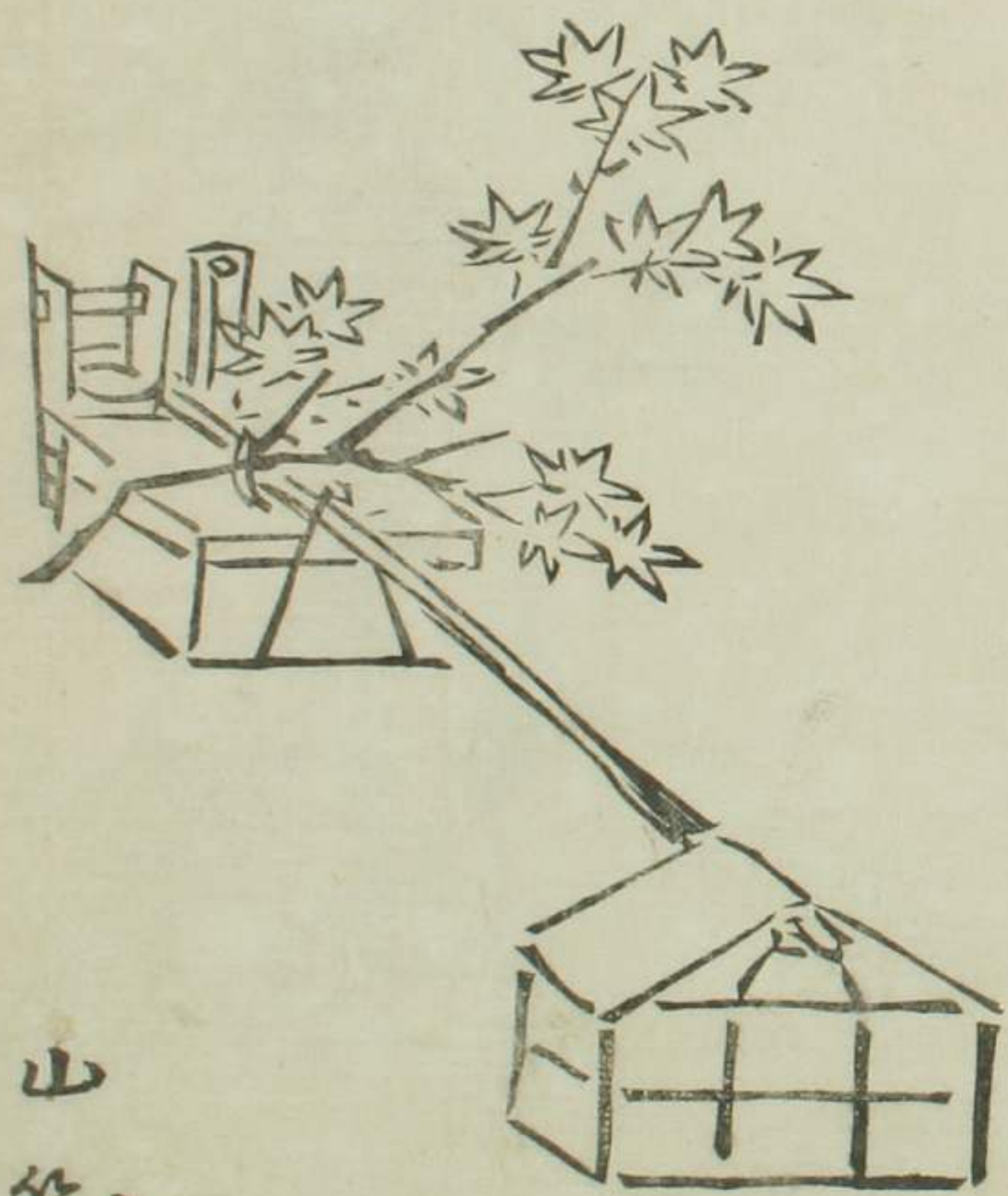
息
つ
ら
死



景
元



祖師もさう通天橋乃
 後本立



山笑

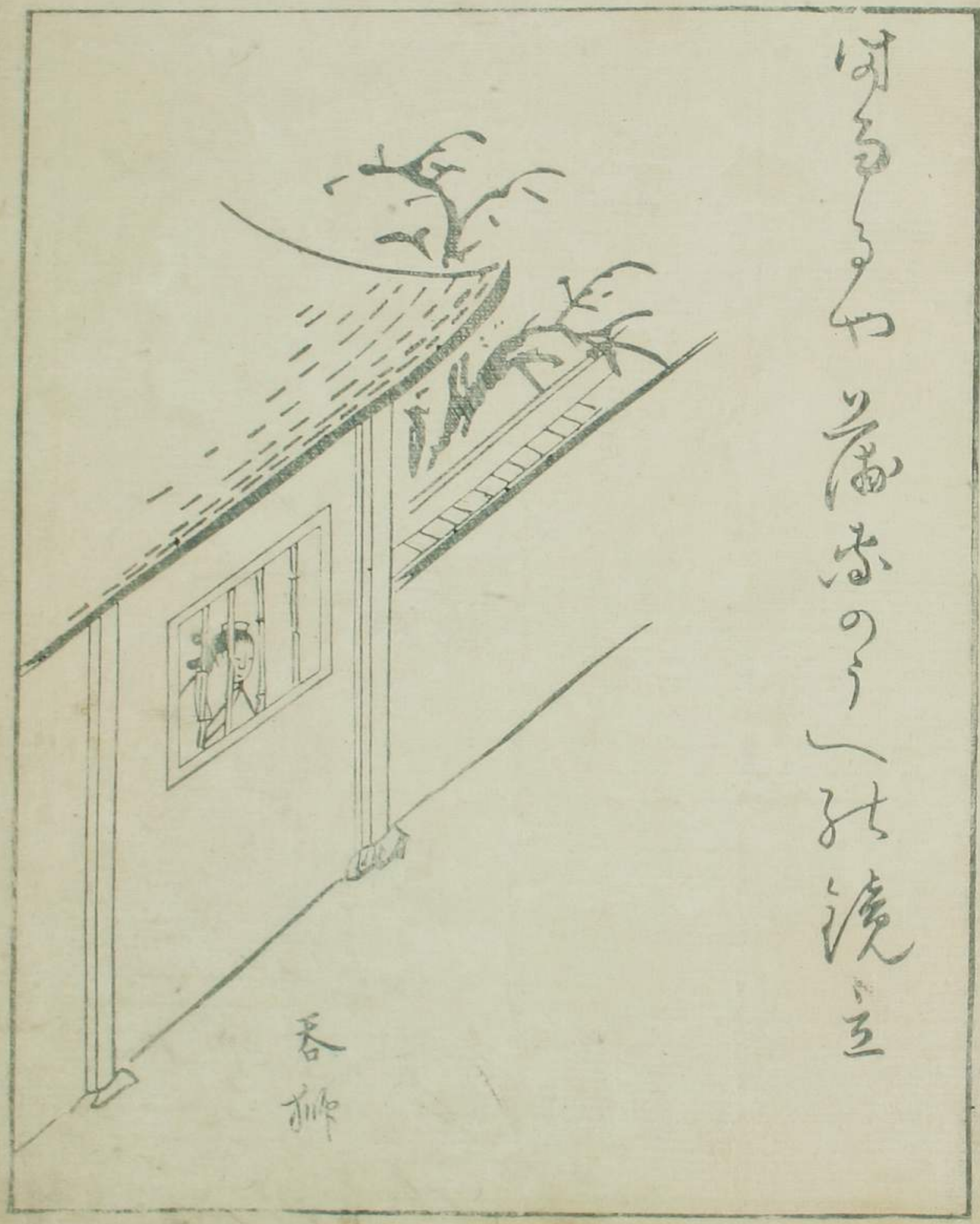


名目也
 裸人取也

文
 著也



女
 今昔



何事もわが庭のうへに花は立

春柳



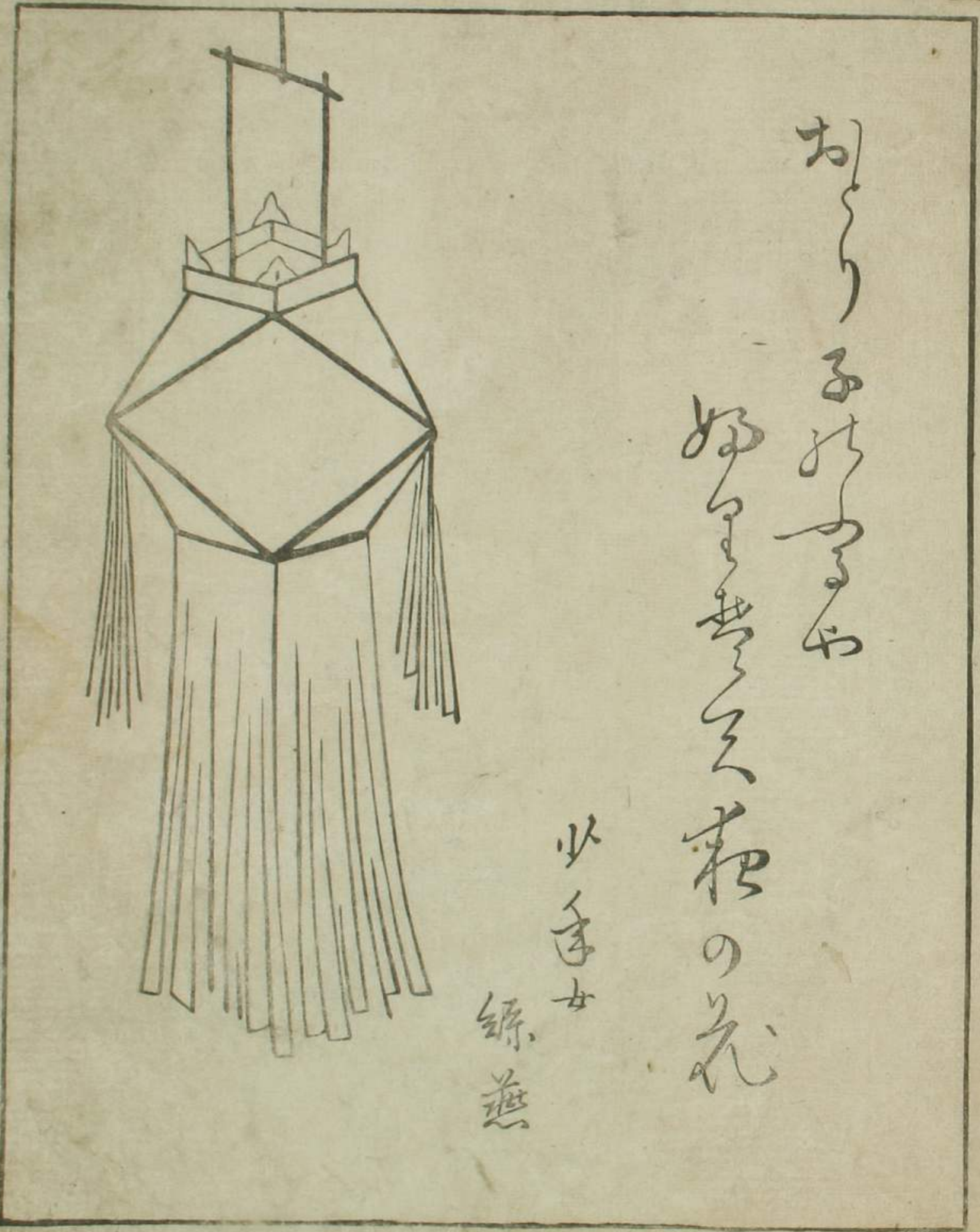
夕

や

思

ふりあふ菊田

相谷



おしり子ねりや

ねりやの花

必手女

緑燕



三條女、笑えつき

よのろ 鶺鴒 華

児舟



木之有節者
 果在也如子也

一草首
 兔



竹之節

竹之葉

竹之根

植
 乙
 女

飯室扇首

果
 報
 もの
 初
 心
 心
 心



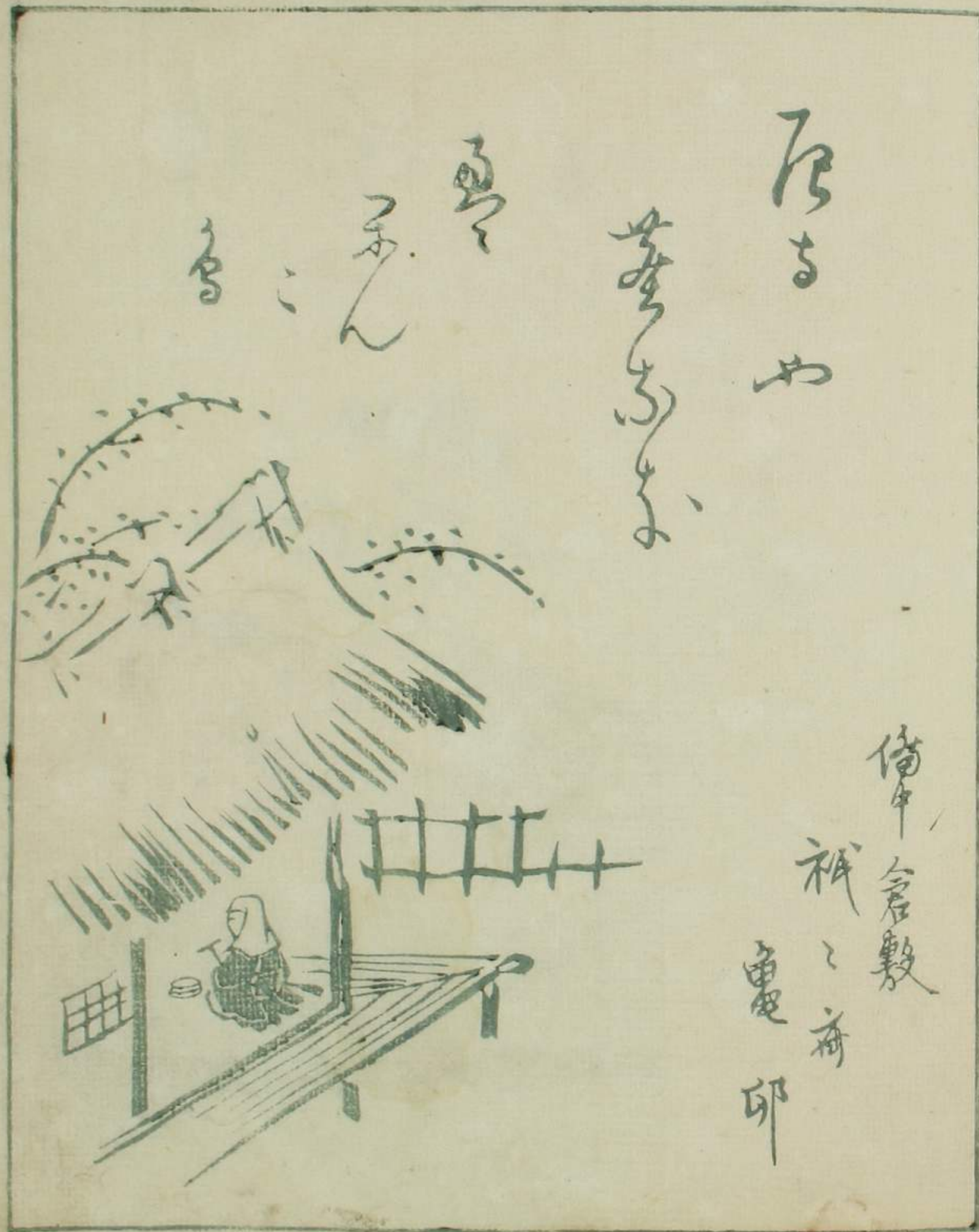
所
 彼
 徳
 無
 百
 文

わ
 っ
 々
 も
 い
 っ
 っ
 々
 所
 風
 の
 音
 初
 九
 日
 魚

信
 義

素
 菟





居さぬ

女若し

鳥

子

鳥

備中倉敷

祇園

東卯



正直

と

者

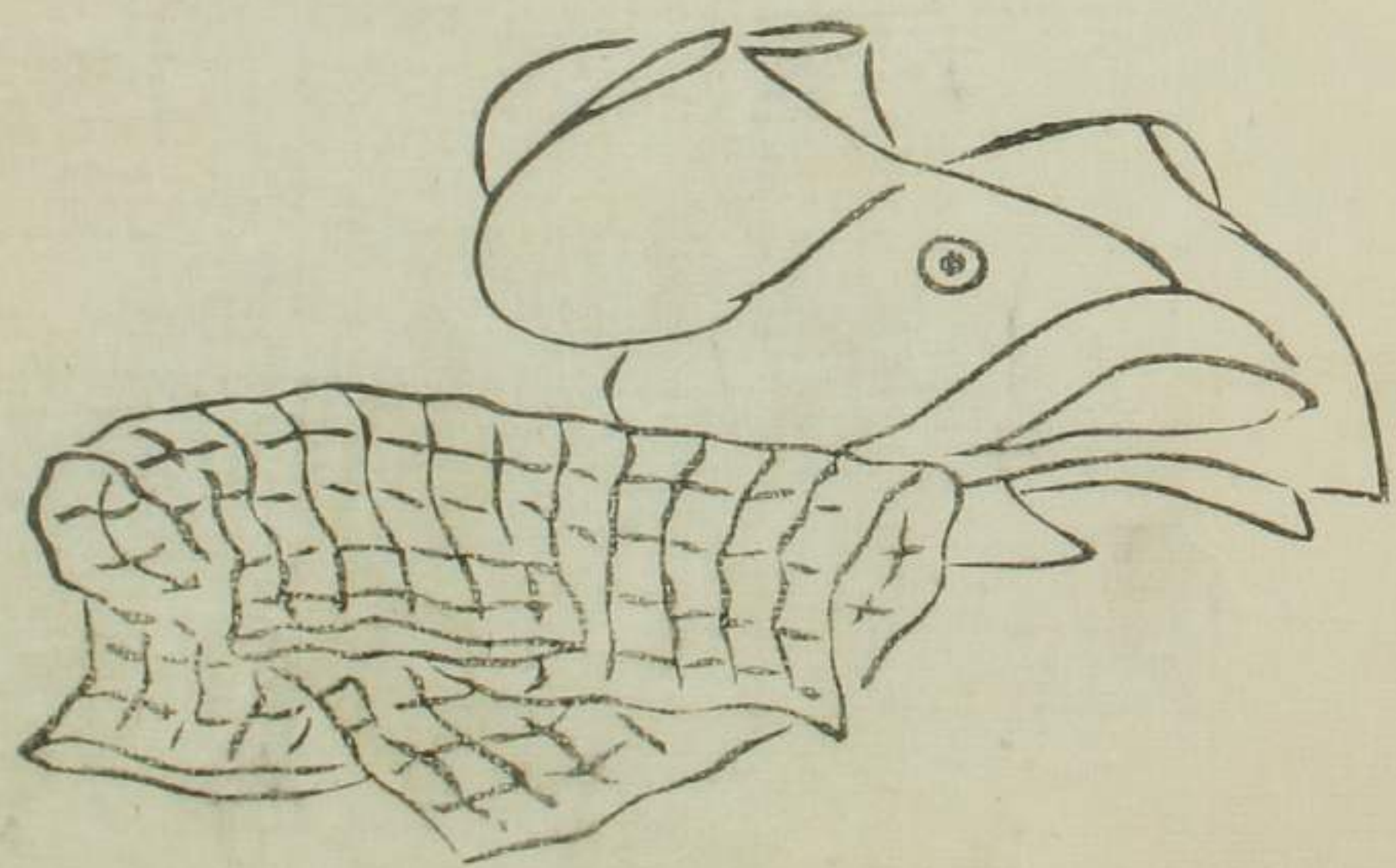
人

肥前佐賀

日吉

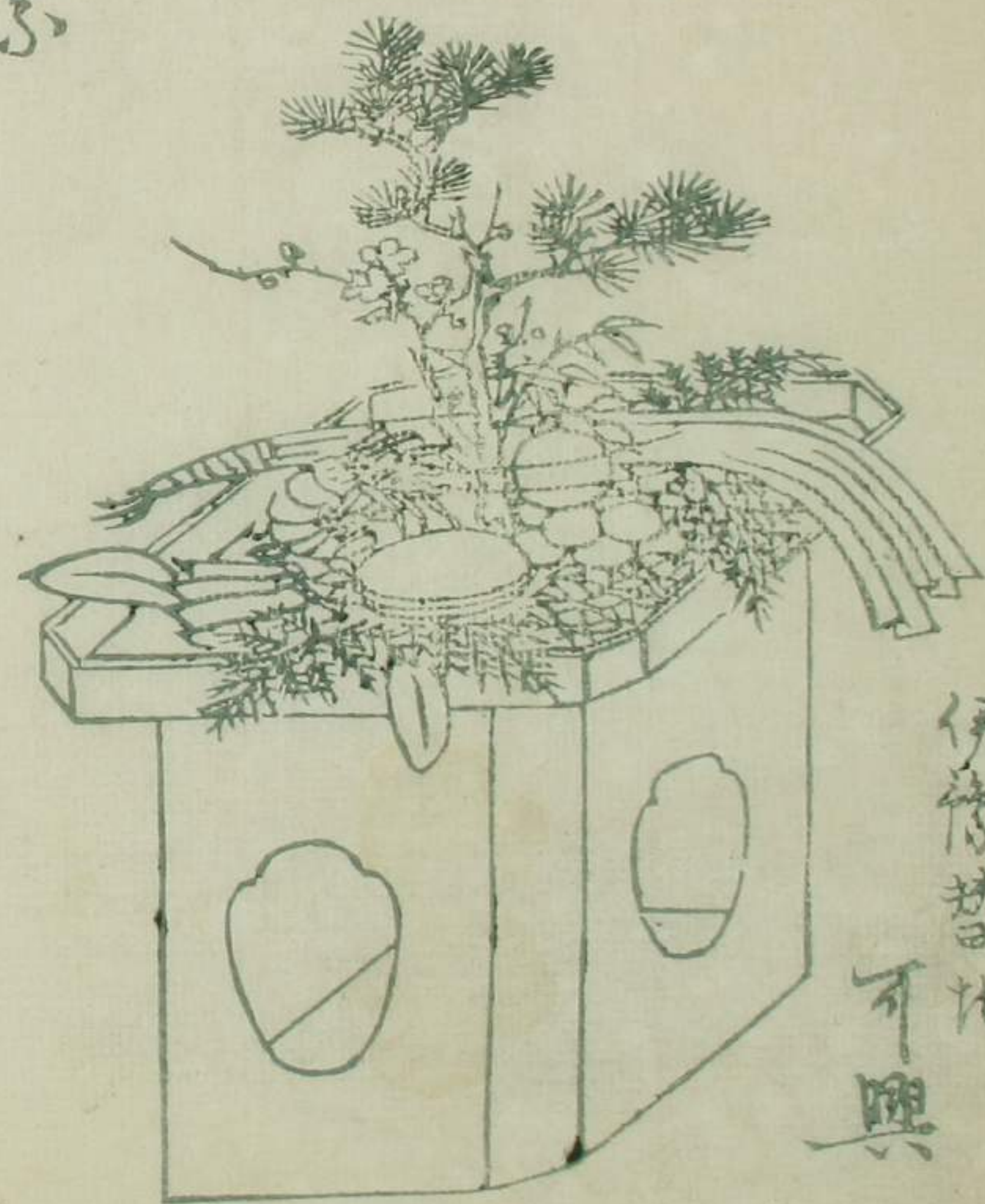
東卯

一
 乃
 加
 石



新田
 之
 重
 橋
 水
 我

權
 乃
 男
 石
 石



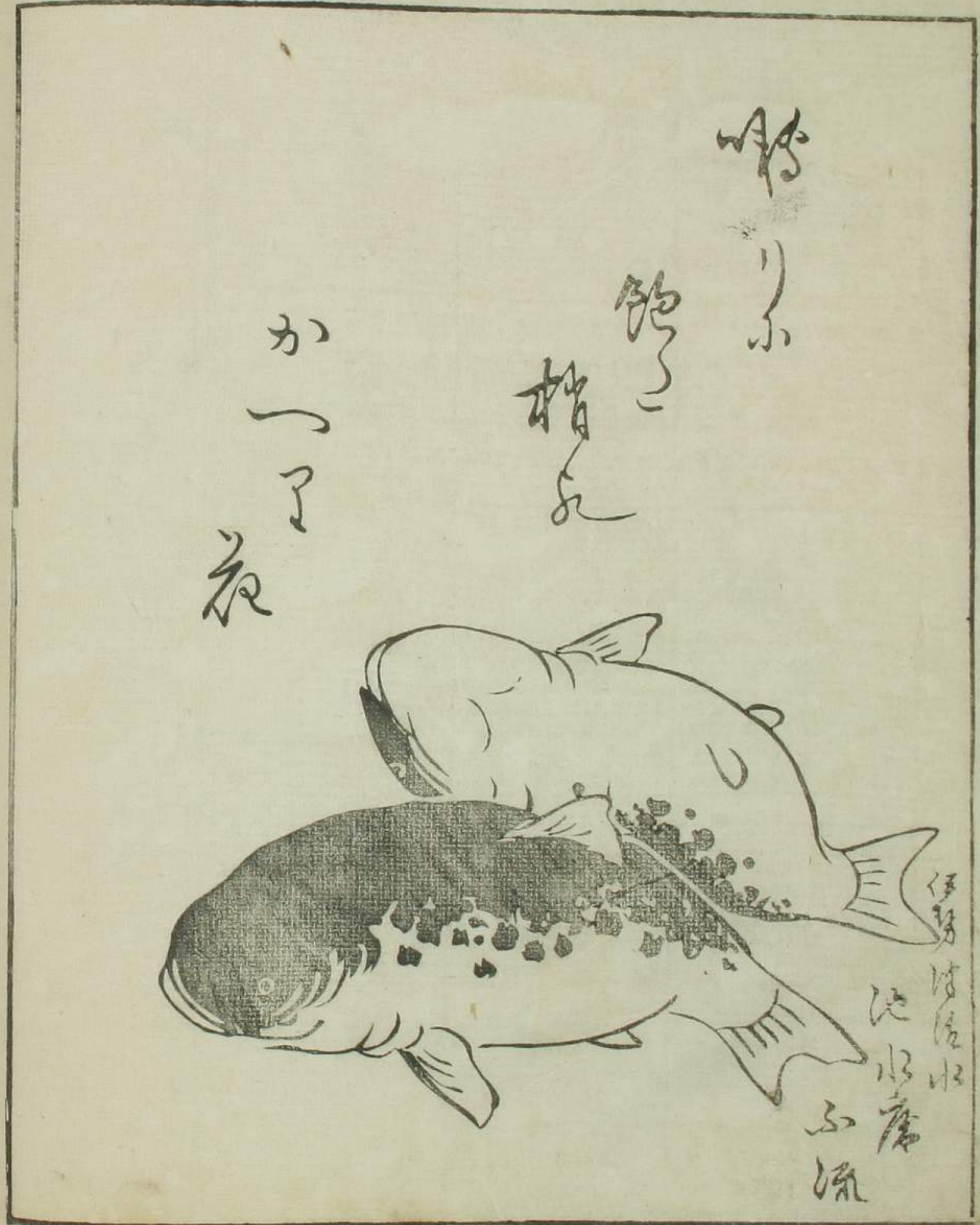
伊
 傳
 替
 地
 可
 興



益年、吉
 乃村かや家柱

南紀

孫草



明
りふ

飽
 指
 丸

か
 了
 夜

伊勢
 清水
 流



行此山此嶺
 城下不動坂

伊豫三浦溪
 日野井會堂



東旦

大天乃喜多阿多志能毛家

如日園

石川宮内此宮自喜也



一山
 寺
 竹
 可
 自

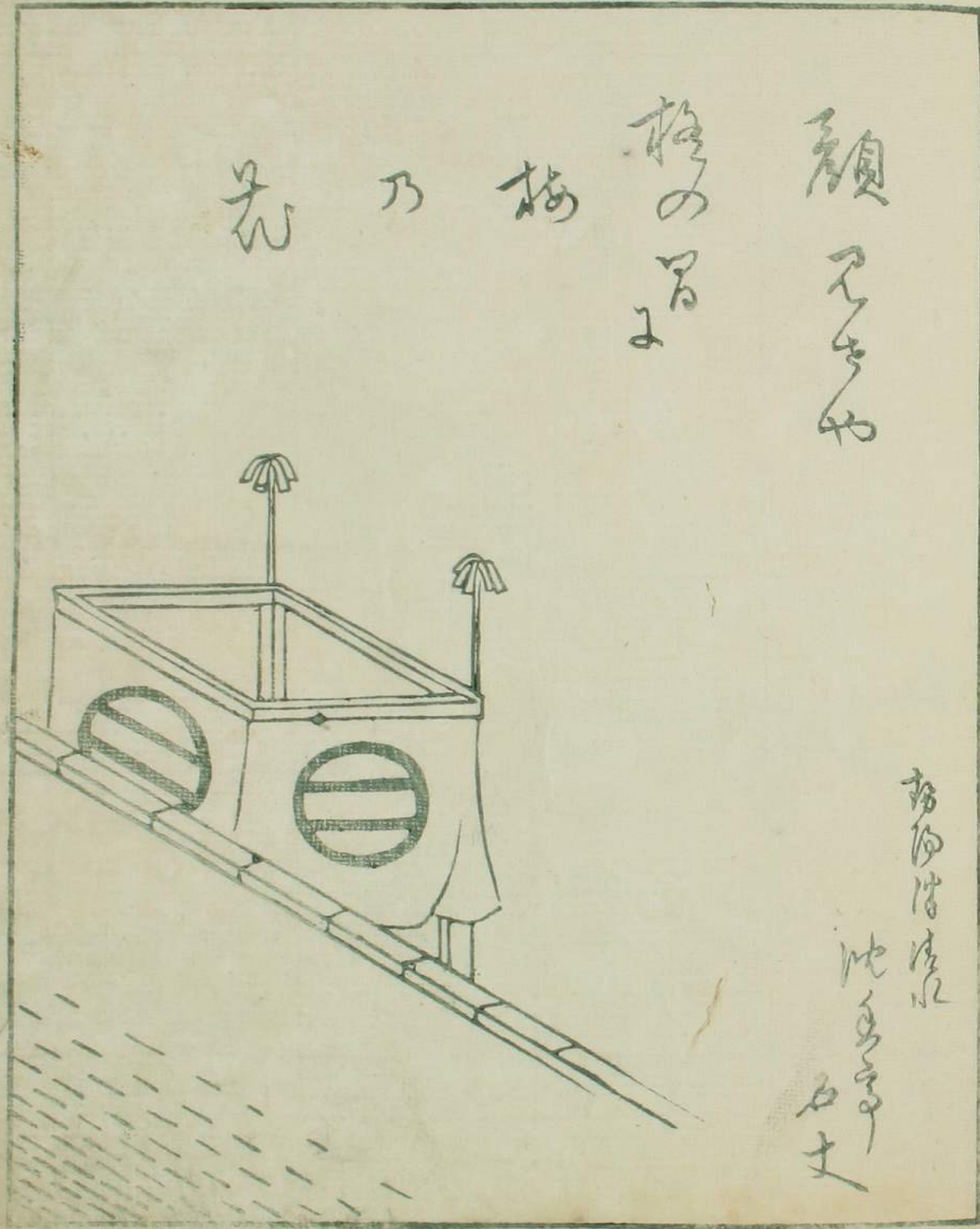
寺
 竹
 可
 自



中
 之
 舟

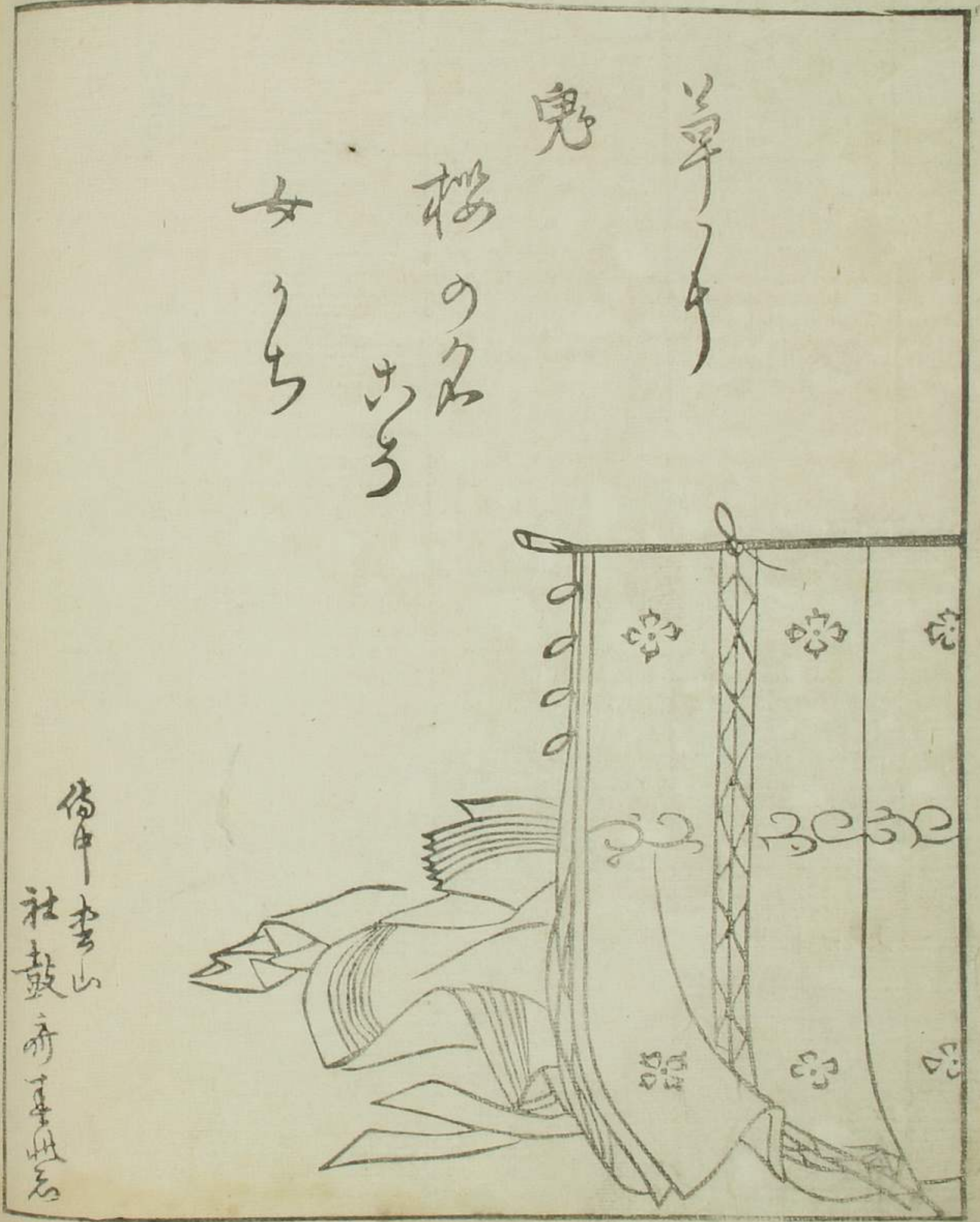
舟

舟



顔
 乃
 梅
 花
 の
 名
 女
 子

江戸浮世歌
 沈
 石丈



鬼
 乃
 桜
 花
 の
 名
 女
 子

江戸浮世歌
 社
 鼓
 亦
 其
 世
 志



涅槃

子正の茶

種

茶

茶

引

茶後小供の茶

南



大

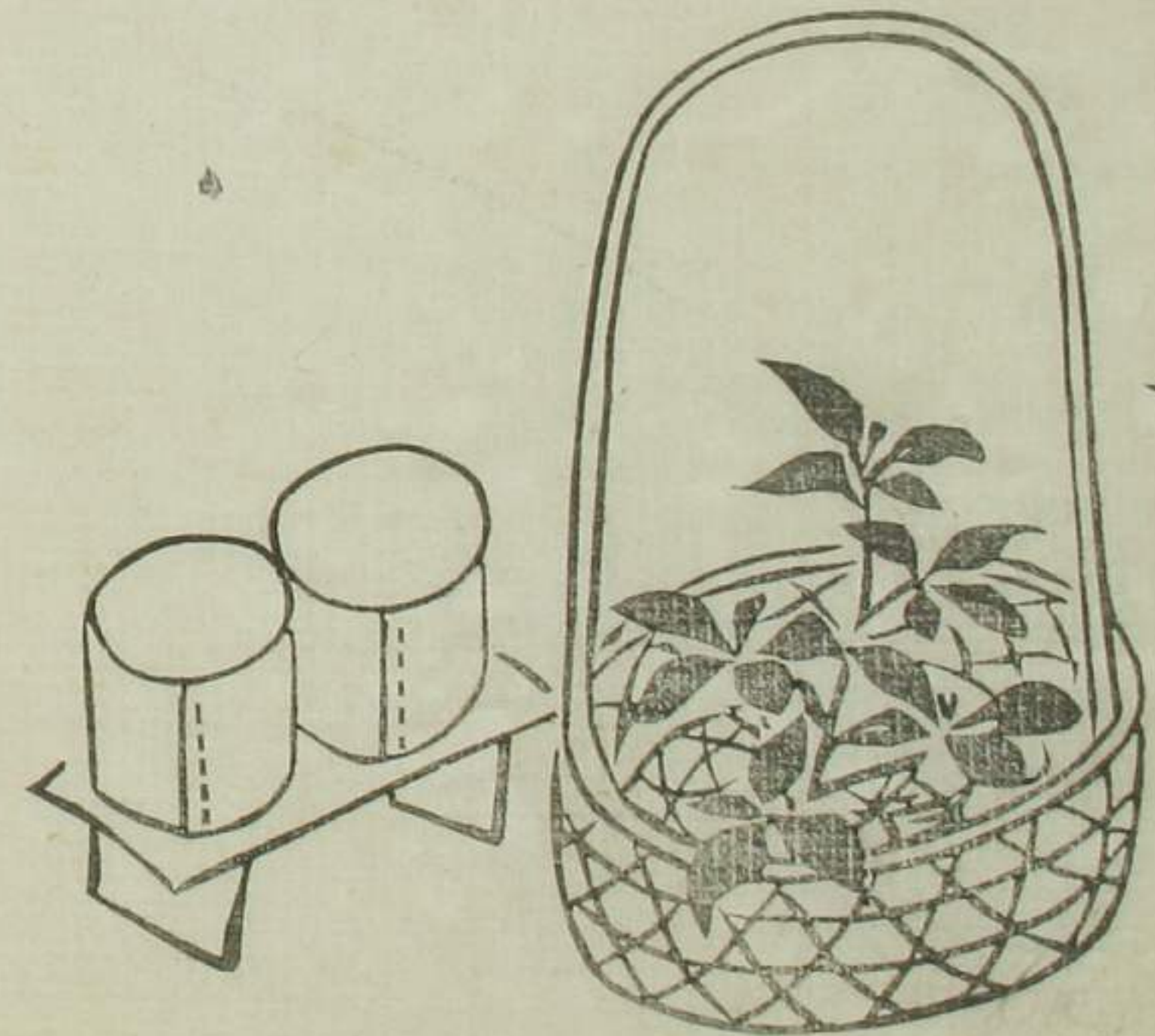
佛の

産

子

らぢのうみ

江戸の茶



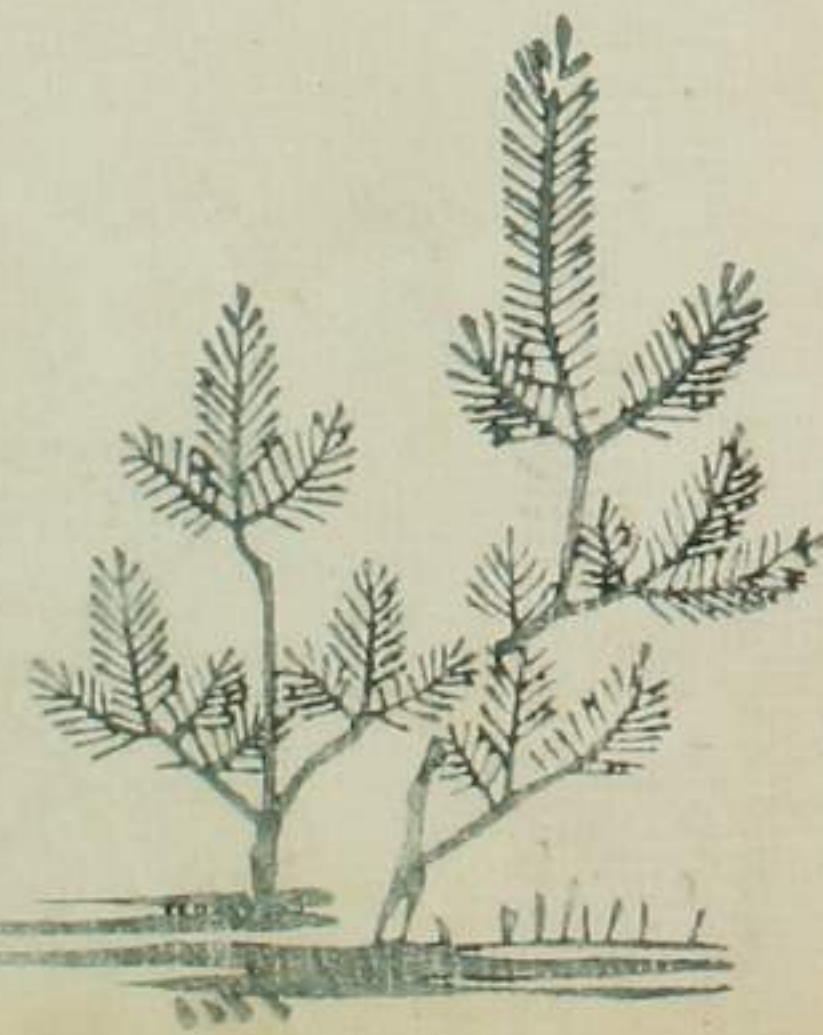
福のまじり

あまのこゝろ

喜柳



天月林
梅雪



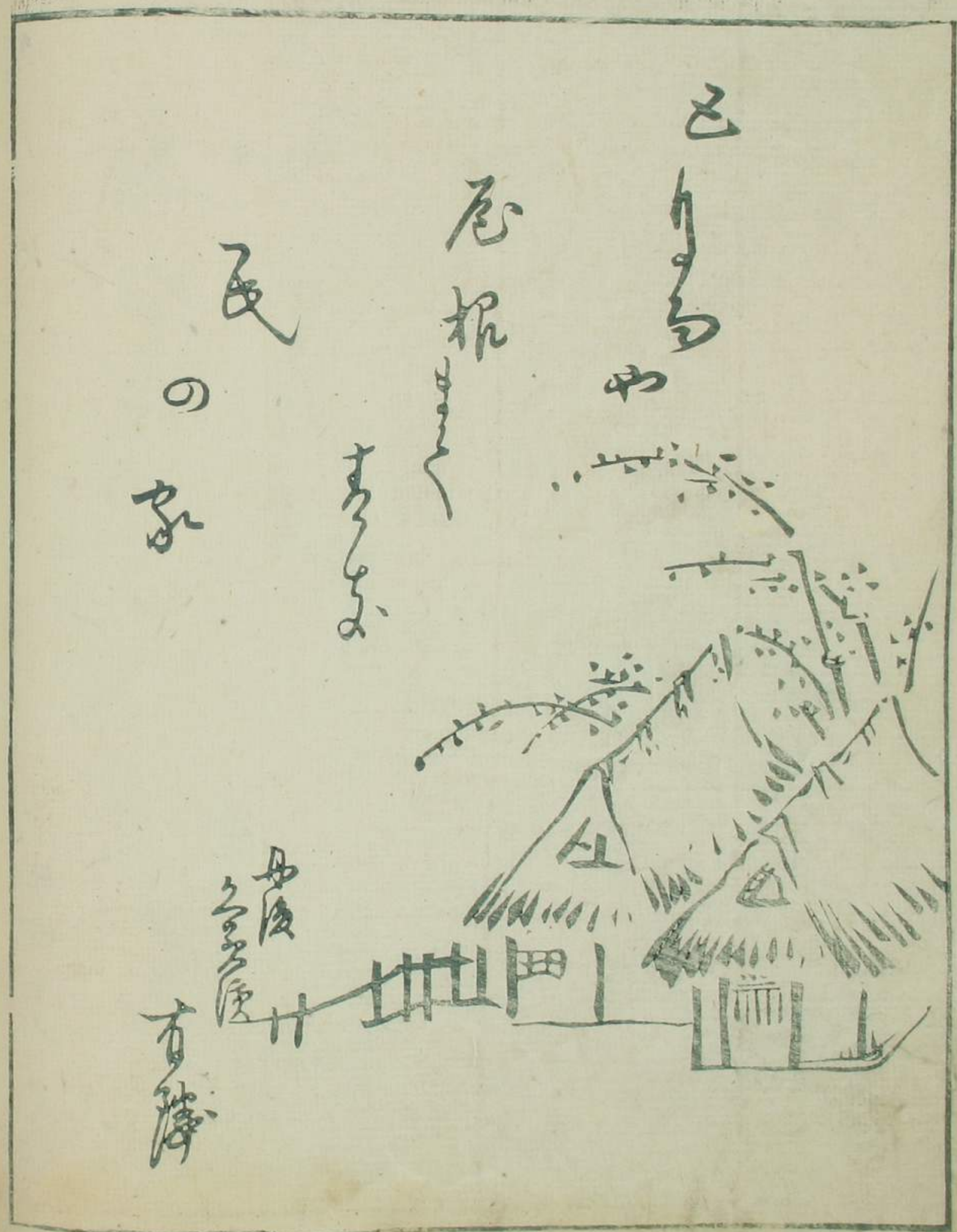
秋田土崎漫

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ



全
翠韻舎
釣奇









今
 之
 掃
 帚
 也

但馬石

本
 方
 改
 民
 場



花
 束

花
 束

花
 束

伊
 豆
 新
 阿
 菊

尾寺

花

志

書

書



江戸
十寸花

尾

花

志

書

書



東洋源信林村

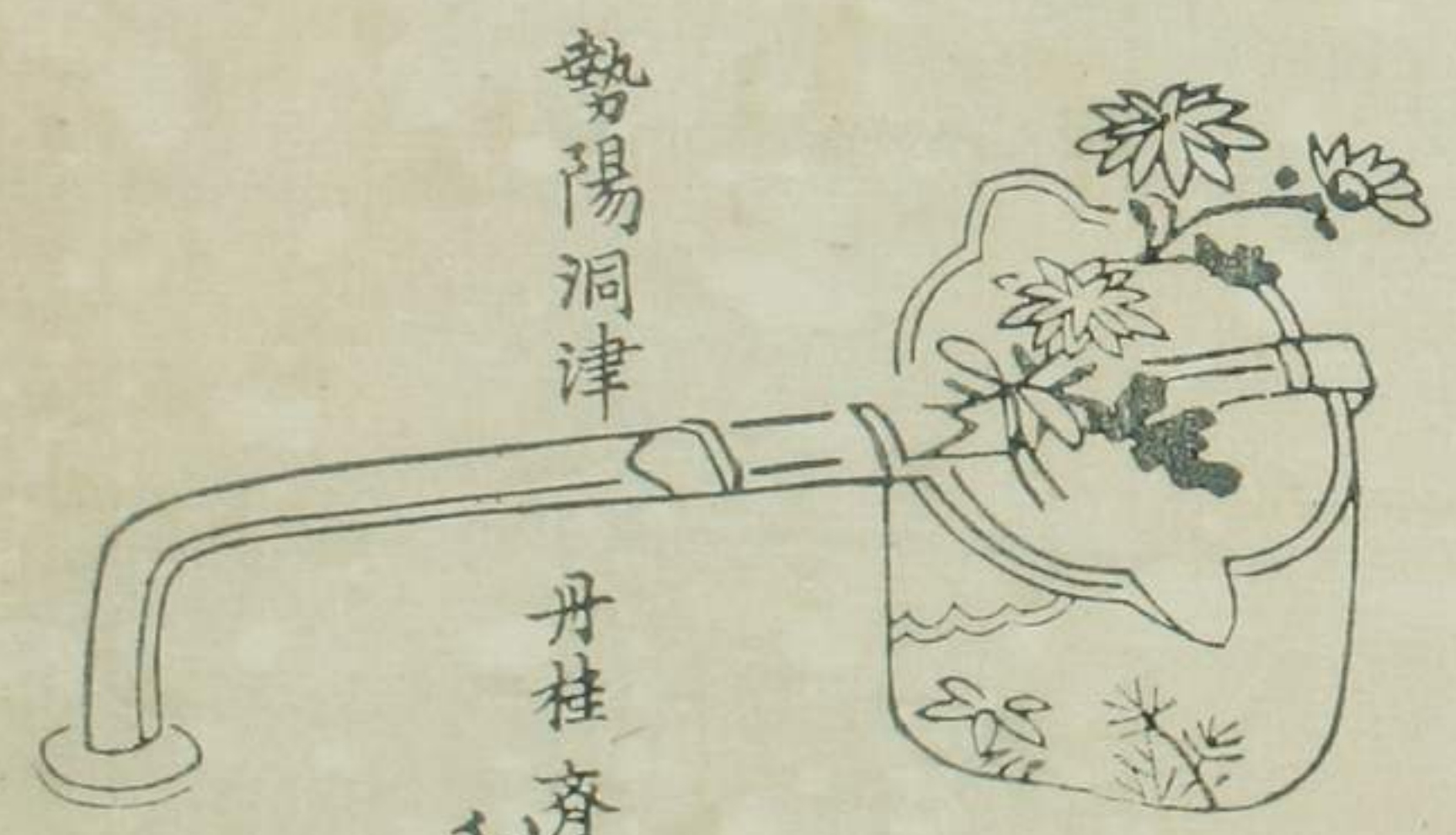
七
咳
ハ

総

葉

ハ

乃
酒



勢陽洞津

丹桂齊
利人

斗

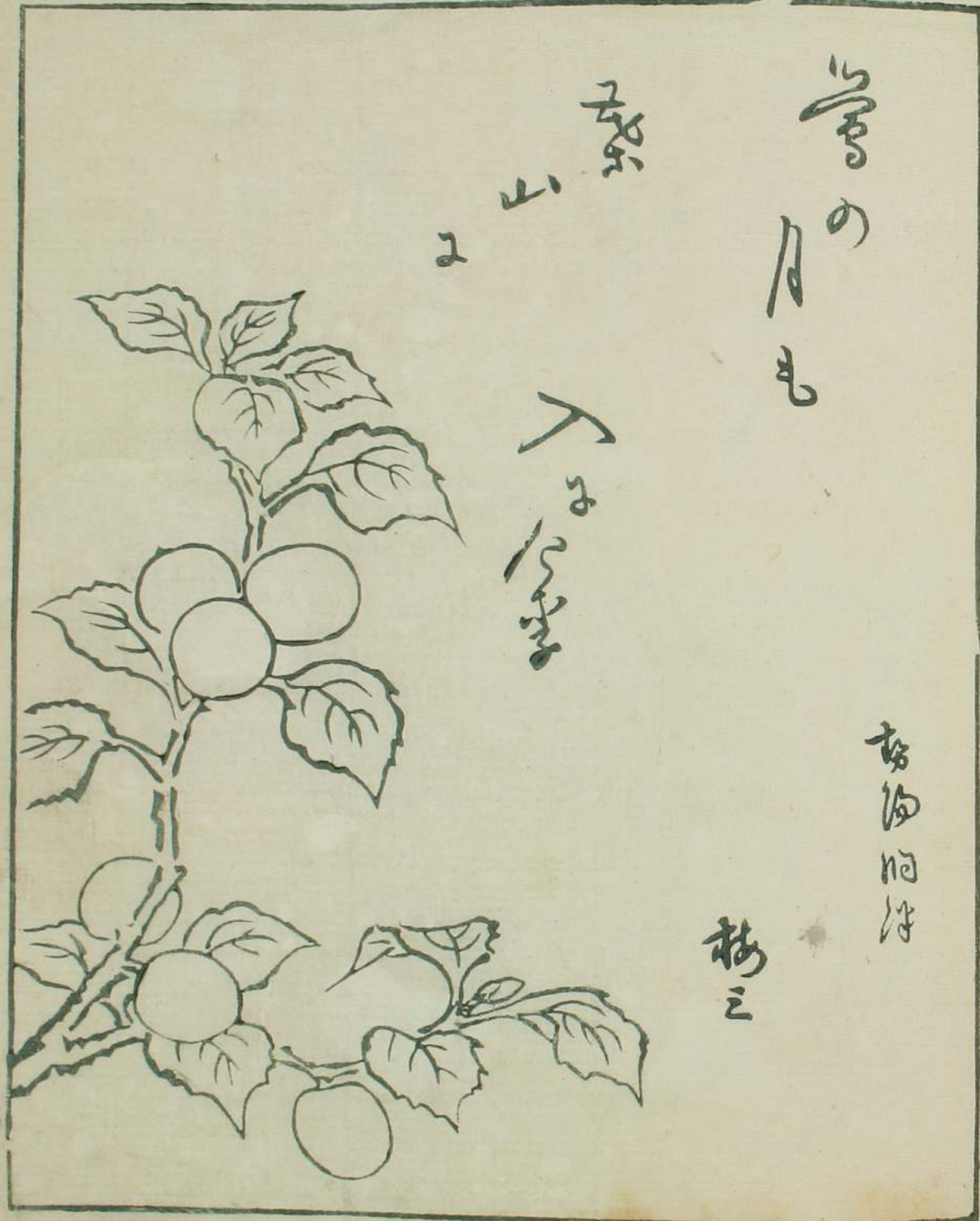
斗

稿

文



伊勢洞津
山



月の
も

山
の
こ

人
の
こ

新
海
の
津

梅
之



魚
之
山

城

何
れ
の
ま
ま

古
用
干

丹
後
宮
津

鼓
腹



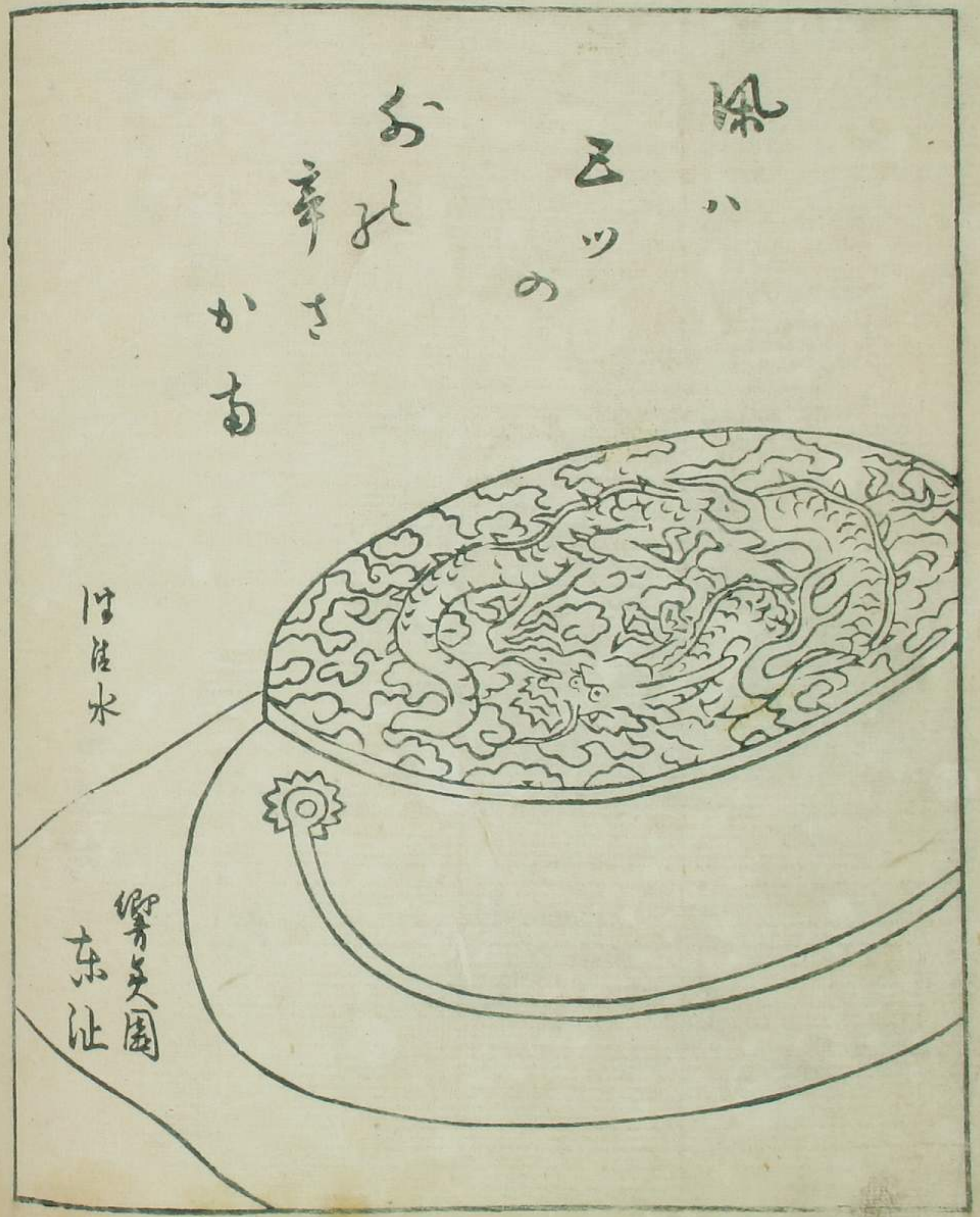
山
山
山

岸乃即水

水の底

勢利産田
弥堅奇

其石



風

ムツ

の

分

辛

か
あ

河内水

御英園
东止



かきふ葉乃ちり
 初川美々々

此は法皇御一糸止泊



鳥の袖
 哉

あ

ひまわり

嘉の
 宗

嵯峨
 原牙苑
 富鶴



破子
 七刀
 と
 つら
 柳の
 志
 志

羅年
 浮天舎
 子屋河竹原



柳
 柳
 の
 柳
 柳

任
 竹

子屋河竹原



親 跡 寺

十 七 子

り へ

十 七 子

水

全 家 射 万 空

觀 音



名 所 の

上 之 庭

二 之 庭

枯 野

り ち

新 洲 屋 子

東 之 門

十 七 子



硯
筆

積
之
石

海
之
石

但州溪坂

日射園

龍孫



橋
之
石

石
之
石

高
之
石
之
石

但州溪坂
日射園
龍孫

詩の巻
 苦うり
 歌の巻
 心
 子
 大

大
 子
 尺



親あまの
 指
 惜
 須
 の
 花

同慶
 大桂高
 加敏





日の線此

麻子

んや
おのり

豫州豫山麻戸

夏羅園

狐木



網

和

いこ

は

く

は

但馬九麻羅合園

郡馬

と地す
 乃衣松
 お
 石の麓

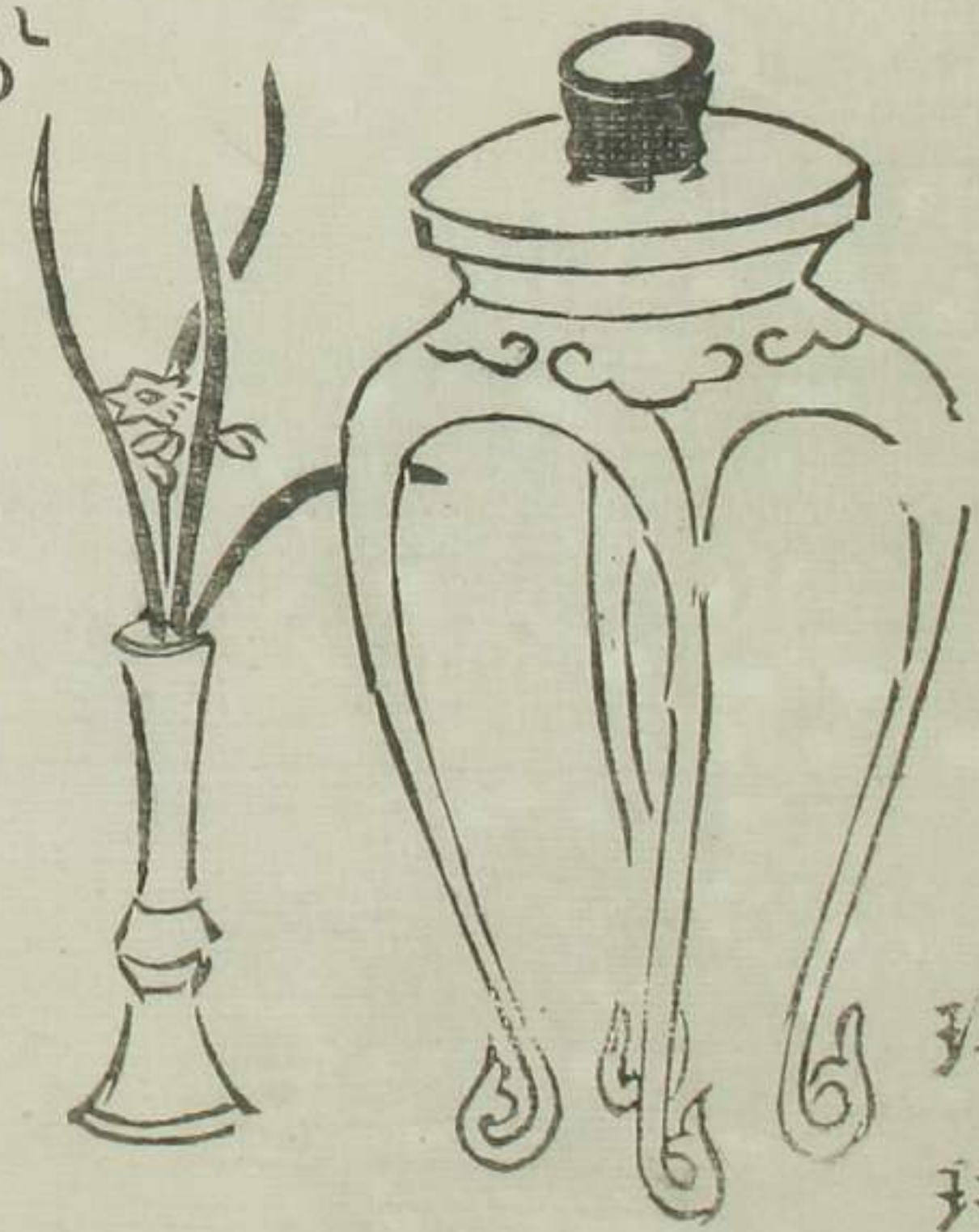


新州橋田川
 芭蕉桂橋
 竹汀

李婦人
 の人

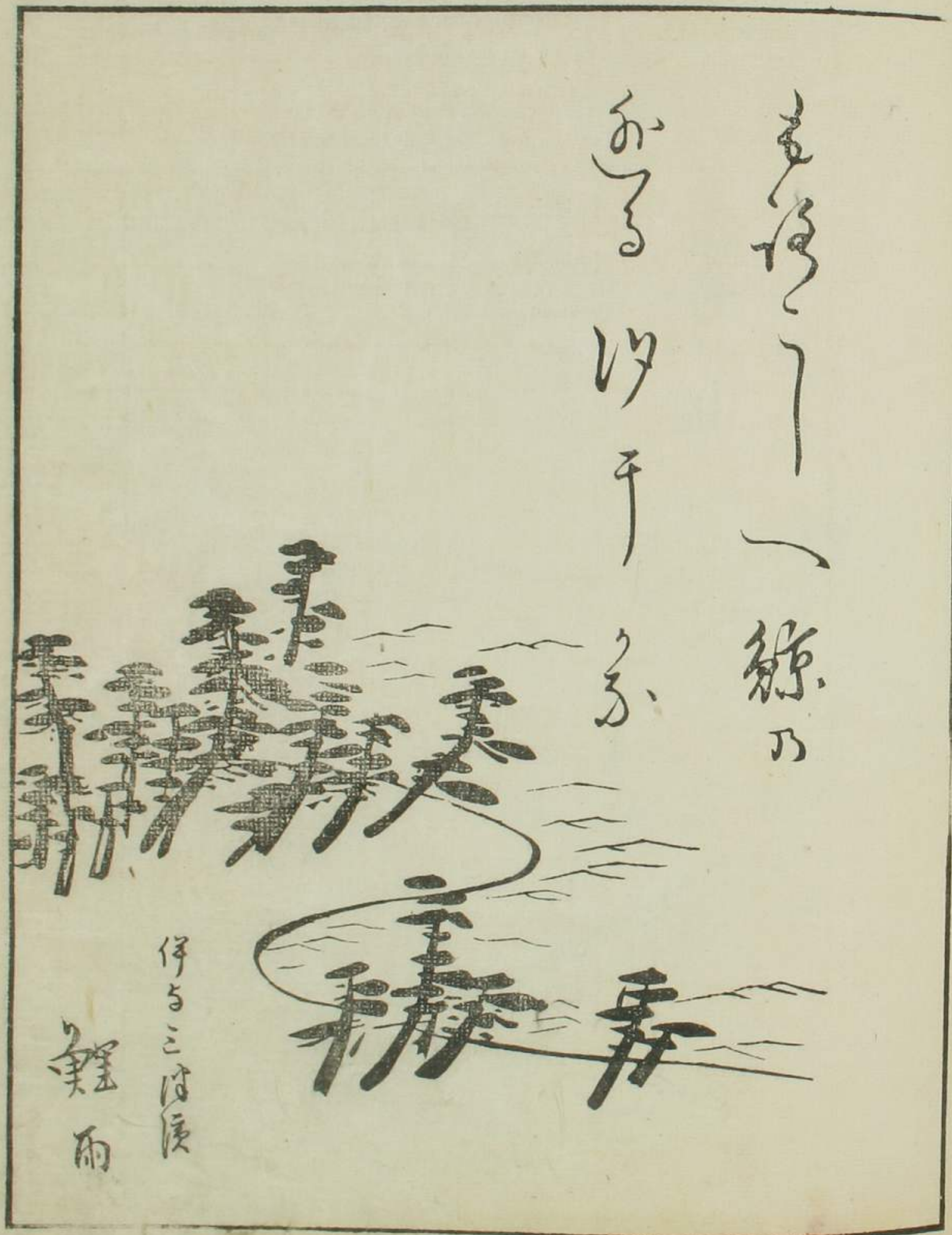
老松
 の松

雲
 うふ



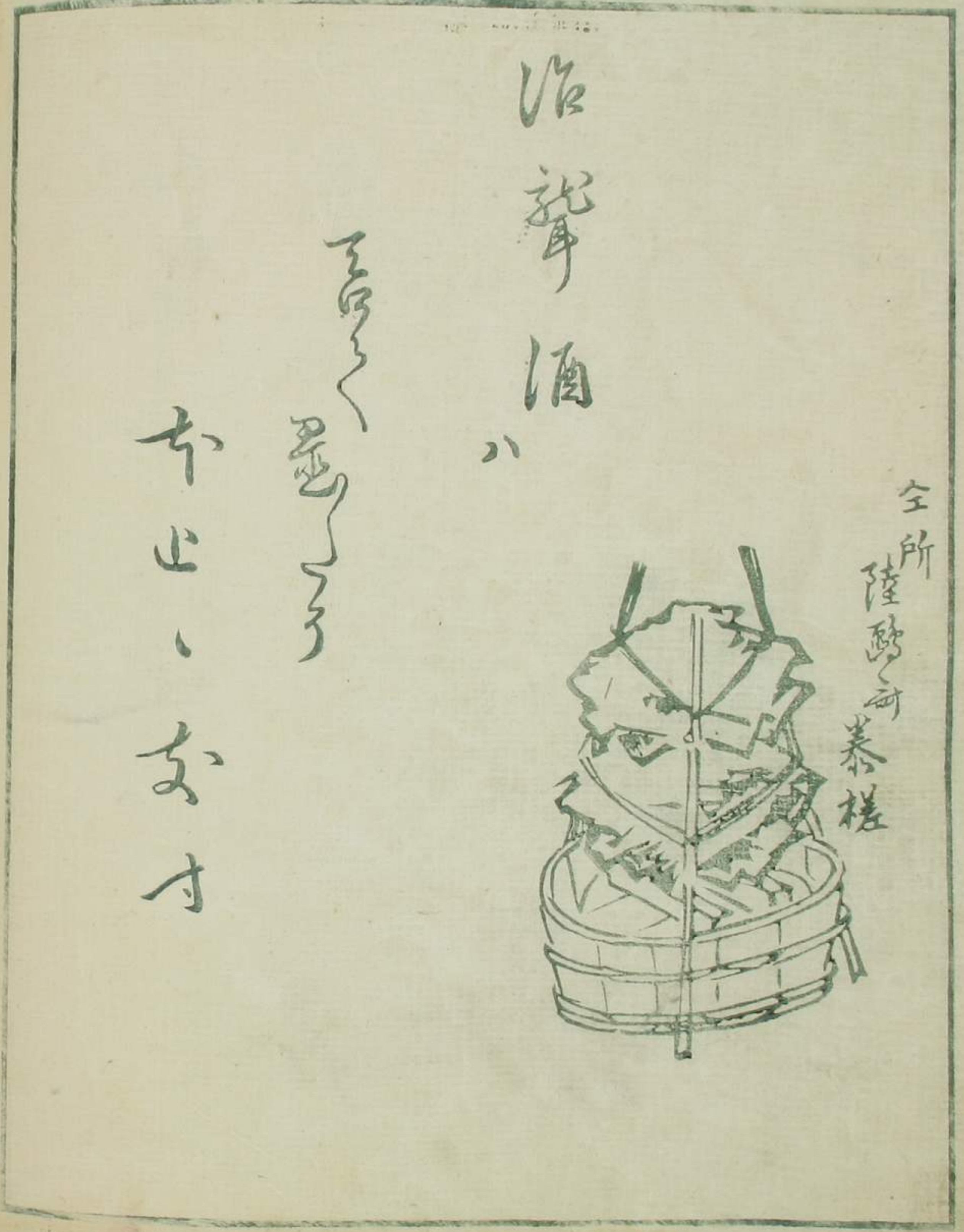
備中倉敷
 句くを

珊瑚



一絲乃
 糸

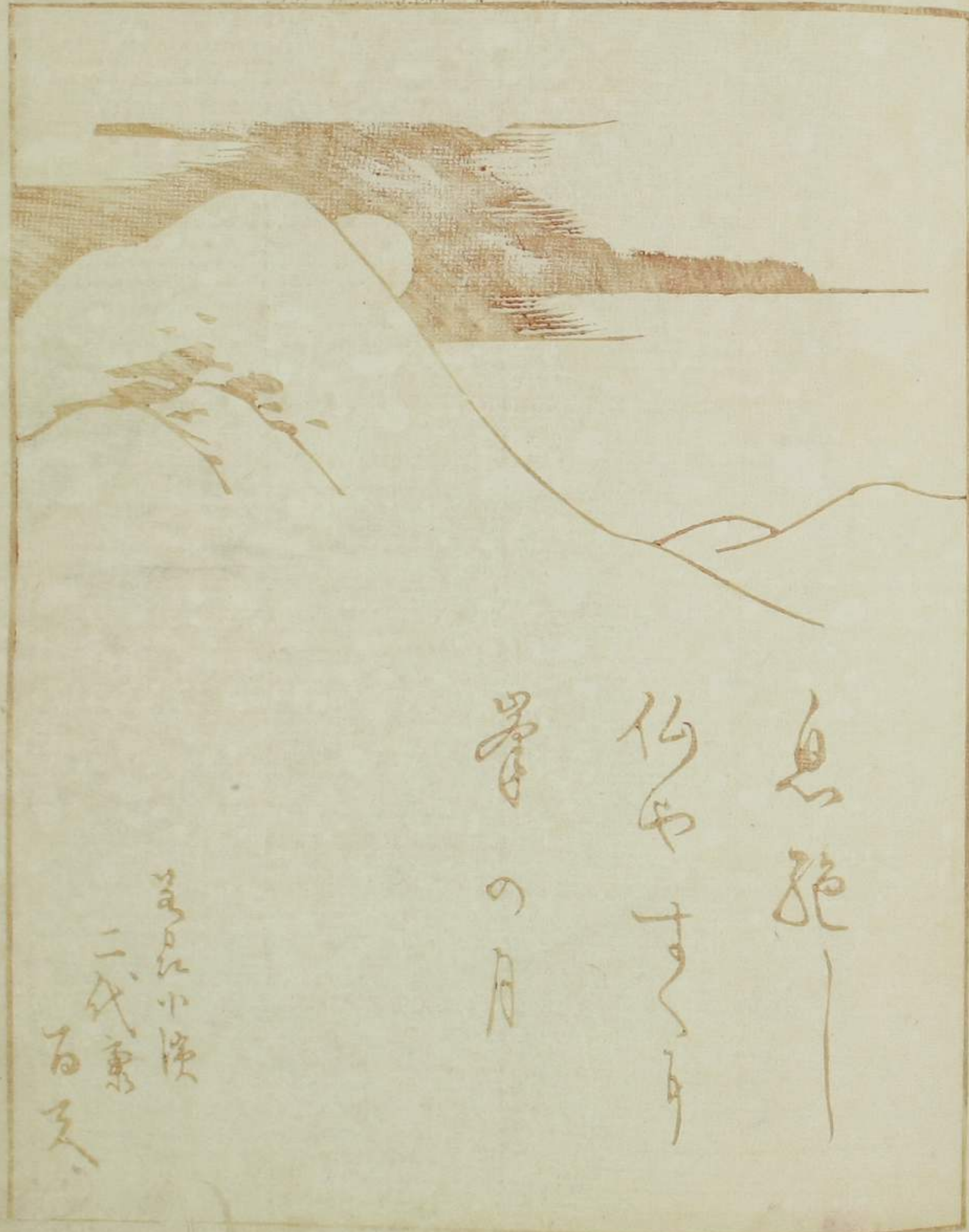
伊予三河屋
 舞雨



治
 弊
 酒

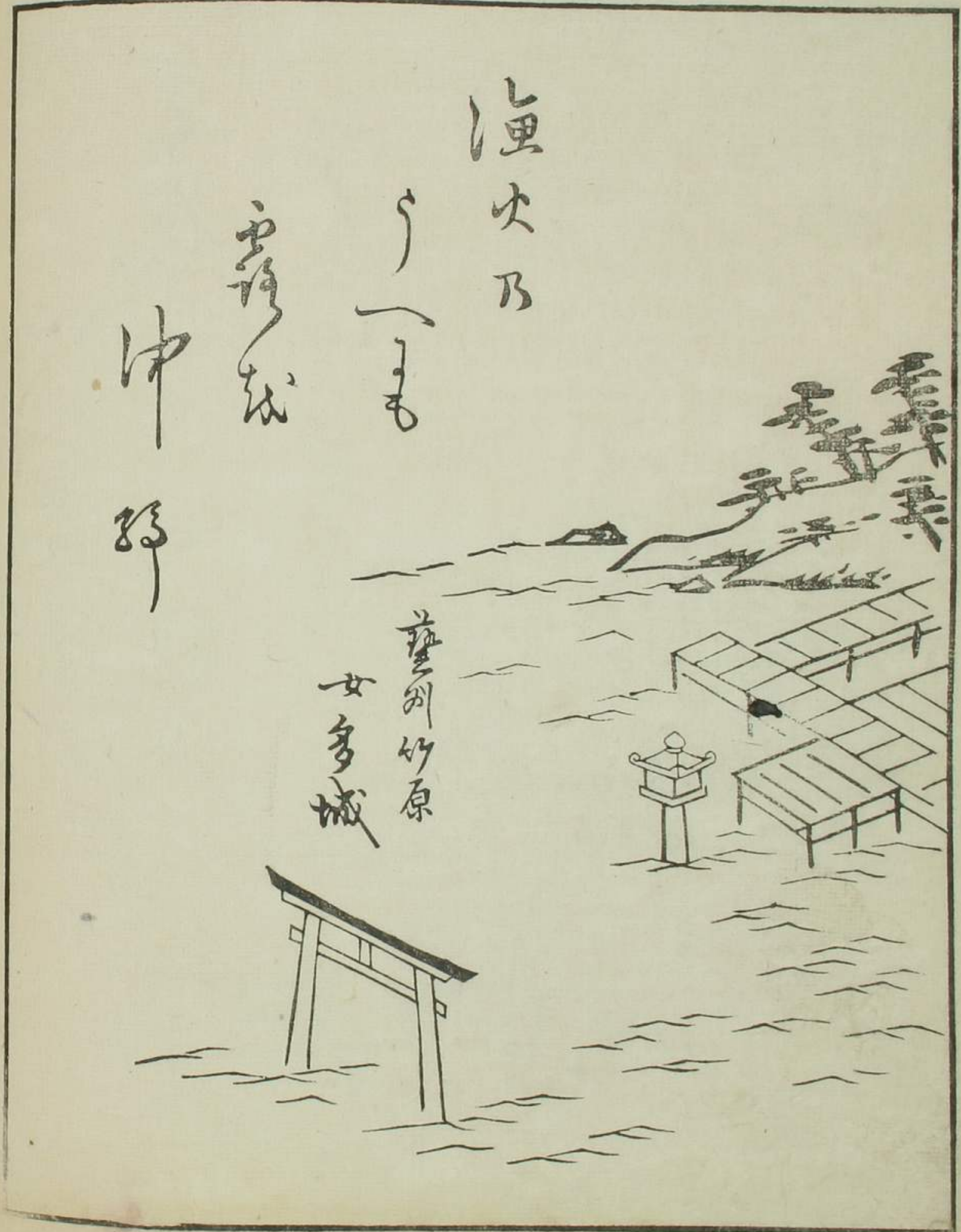
全所
 陸
 越
 前
 蒸
 糕

本
 止
 一
 文
 寸



息絶
 仙やすす
 岸の月

美濃川
 二代東
 百文



漁火乃

くも

中野

中野

藤原
 女多城



絲
櫻

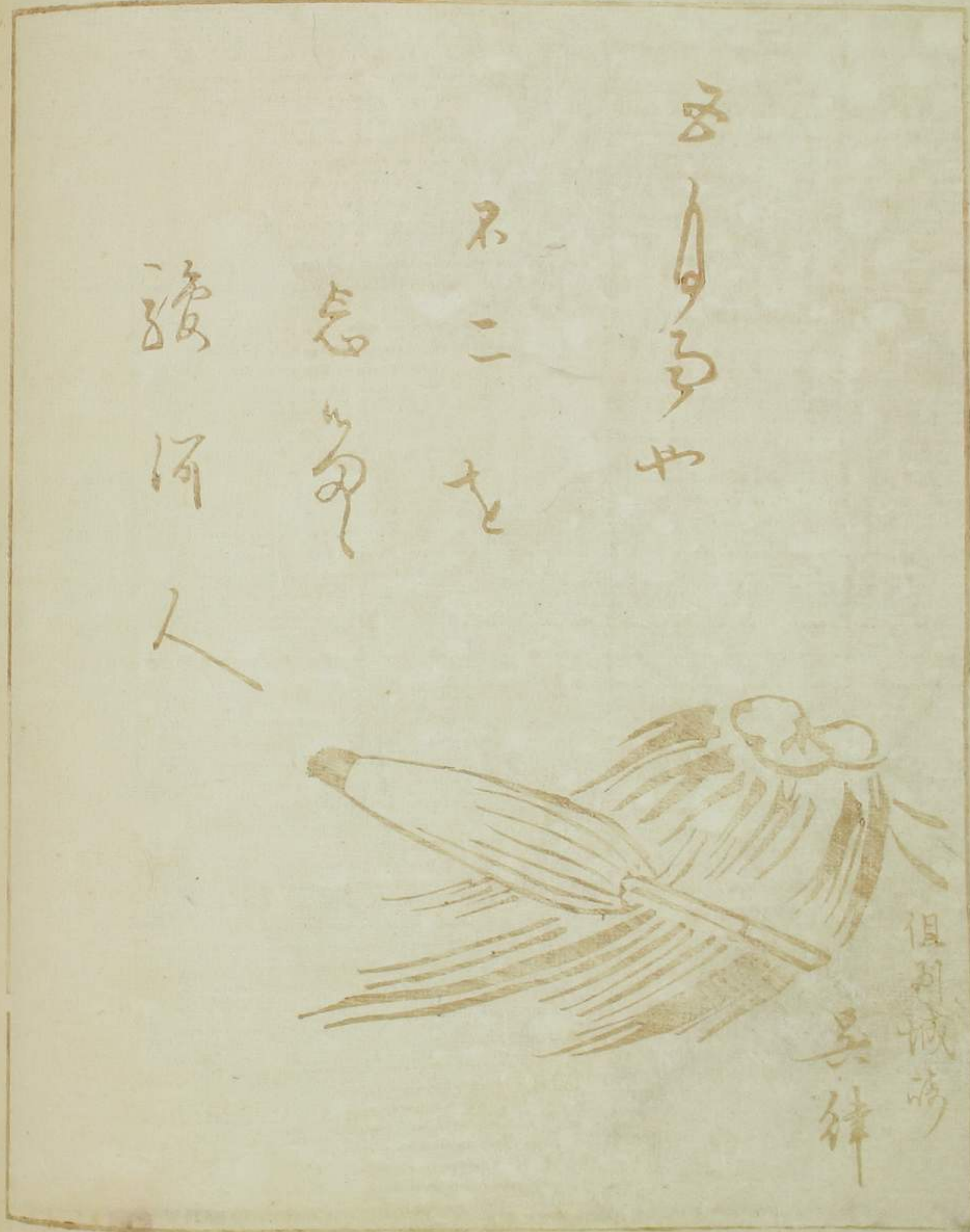
あ

全
う
も

根
こ
う
家

多
州
小
浜

雨
杏



五
月
多
也

不
二
也

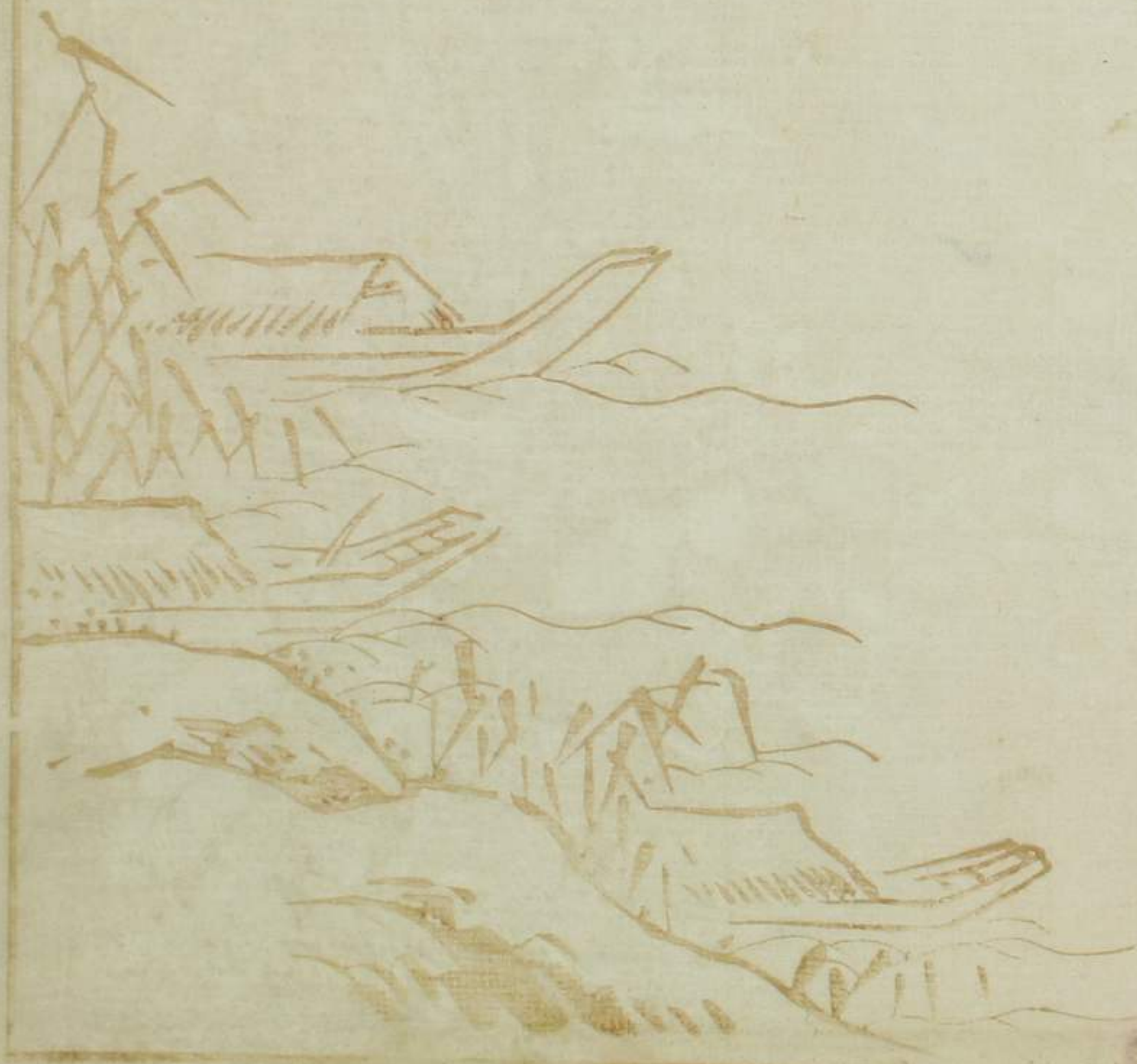
志
乃
命

渡
河
人

但
州
城
崎

吳
律

少
友
見
爲
船
乃
可
る
か



若洲小舟

画耕

に
ま

あ
れ

桂

か
く
ふ

る

三
子
の
和

若洲我

嬉
水



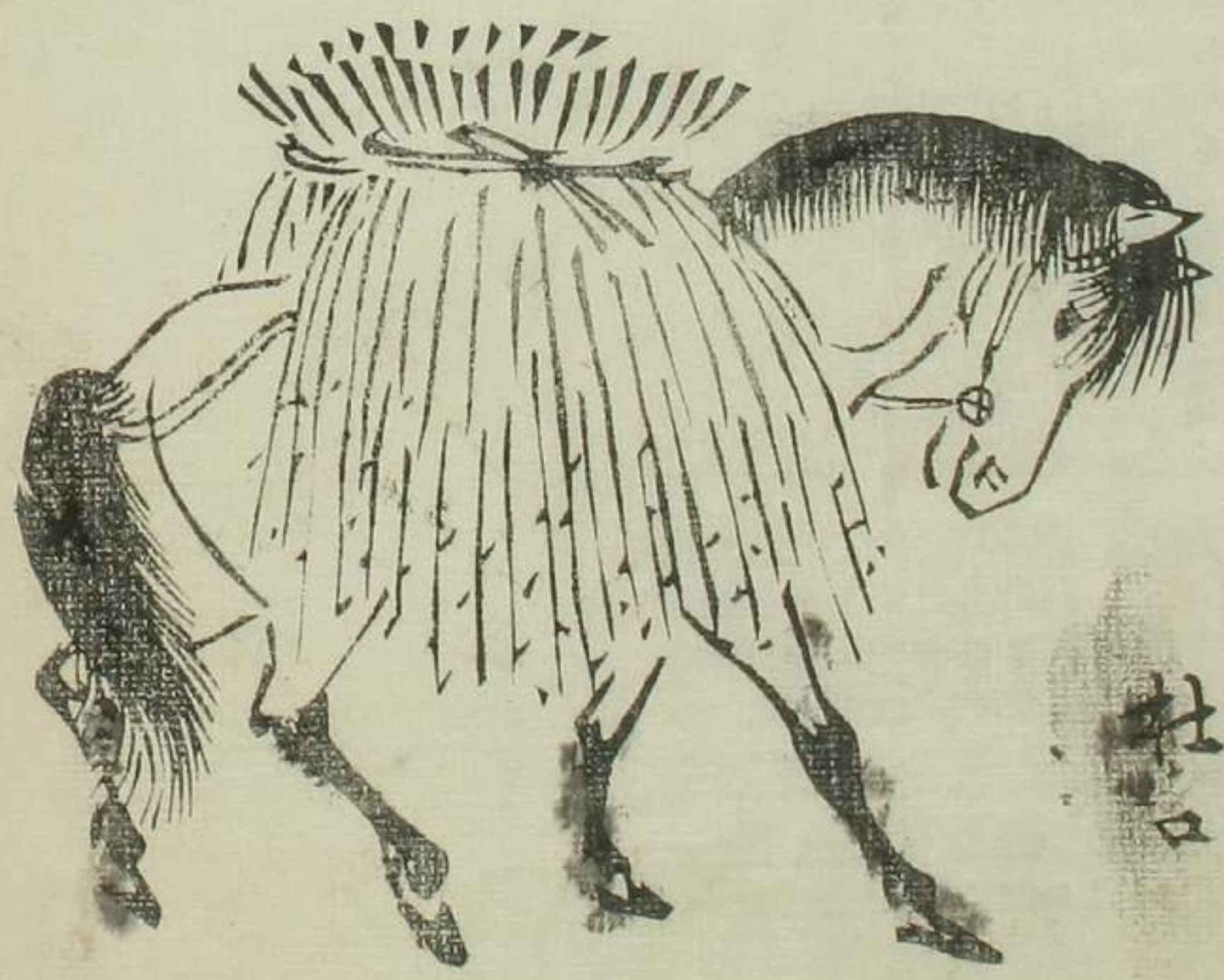


ちりきり

りきり

乃

りきり



馬

波多水乃本地と別れ
馬車圖
正始

素々しほり酒く
目状

馬車圖

中々禮
漸平
能治
法杖
極快
朱羅
橋
馬
乳

待
言
如
之
唯
之
如
之
高
人
帝
波
光

萬
幸
亭

追
加

初
言
也

上
之
の

高
之
帝

極
快
法

春
桂
園



八音楼
のり

床
乃一

嘆
止る家

福
書
也



老桂富羅人

歳旦

卯日新く水やを 吉まきのなり
花乃朝ハ元日慶れをまふ
上るハ日花名人ハ朝朝
遠方よりまると 友まりの
まふよりハ 縁うまりのハ 初日は
香ハなる下をハ なる人

元香

元日乃初夜や初半は犬吠の
能城の音寝まゝ寝る星は

梅

あまの持しに梅の花
青峰をまて吸ふをやんめ
梅よりさきより咲くさ
白真紙増やな〜

人より教本町むめ乃花
字々し守や摺餅もなう水か

鶯葉

谿の戸よりひきくと世果市

人日

七種ハ多の初夜乃あろ

上元

燈籠や睦月もなは多り河

青柳やまのきりゆーり 凛

歸言

行人と裸乃去逢ハ凌くとる

雪鳥

阿々々々大名ゆん輩の音

笑ふ度 齧や入ん 山嶺の松交

紅梅

梅千樹 樹々 乃紅花紅梅

菜花

か茂草乃一原お好ましく花とる

やうふふやいづき花好しく坊塔

情子此夏飯清一書の池

啼き雀空ふく水ぬれ瀟り抄

夜櫻ハ火の形ふ伽羅紅の紅

飽擦のく水まゐと指ふ茶もま

上巳

かかりりや聲一ゆく離ある離
白くきの葉をさふ離乃をさふ
極の日や高頂乃風をさ海の新
赤貝乃葉をさ極を離ある
毒根貝子苗女ハ此日る非
久望紙をさる本徳也故乃花

およそふ伎多かる花より
都もまきく花よりさる佛一
山殿より雪ハ痛一さるさる
加茂川や中子徳をさる花の極
を江流をさる白うぬ山やさる花を
壬生大念佛
花乃場は極言の志見式

法新供

志成るも地物よりも柳町

春の由り一日の日新と村

安まらざる存心ありて
多岐記念しおまらざる

景海一軒とえりんを乃川

難し諒射解見

愛國の志諒るる日之重なる乃的

三月盡

元日一程也さあさるる乃の鐘

更衣

まぬくも宿るるある給也

初給ふ面の乃さあさるる也

子親難給の亦はあまのしめ

をま入備へりかあまのしめ

あまのしめあまのしめ

をまのあまのしめあまのしめ

糊喰りつゝ養ハたき山ノ郭公

回文

田頭分三浦氏信長白き
確何由五十二類乃知ん顔

うたさな

命月とよむ花のち摘る女御様も
親子共婦持しとて言杜母公
多岐実々若らるる世にあらん

端午

葛と海苔を巻くも能く
五月五日のけしき
たしよ根中町ハ張入の古手記

子日る

ふきとくハ増えぬ
浦人と京ハ朝ふと日る
塩しとやたう女能里乃古給

宮乃名もく河能都也五日
心より僕もあたり五日
くさくさや梅のくさくさ
川、清き水もくさくさ
あつた乃るハ異子能怒うさ
夕まや大佛角子事さ白
おちまやさくは秋葉のたき雨
あんなくは瀧の子能ゆりのを

視てあふ火入る大竹杖が
心太

歩芽生ぬ思ふ突おは雲の跡
お蒸

夜啼片か朝より川中泡
さす物も大禁もあま夕日
あまやうく油焚る日やその
かうちかき返さぬく星さう

青島の川に和歌の涼床
かゝりて橋をくわ川す
子仮橋孫からきしや涼川

西風

六月暑少涼増す瓜の端

七夕

暑きくちむ夕うはく
鳴鶴や七日先の首季に

秋の月や夕日見つけは海の底

七夕

おやふ糸や七箇の地坊
星のちと橋く今ハ星の
嘆も星のうらや秋のくま
鶴の橋より水雞乃子
松の子乃ち橋くやしくと

八朔

香中種もくらしし 傍小園のむめ
きくく藤中 細谷川の波か
出たるやあつそふくくし 後へ
あもるは 暮るや 壺 於るふし
村もやい川も清くも 秋めり長
か へ 木も 帰 ち けり ち けり ち けり
山と水 月あつそふくくし 後へ

中秋

はつそふくくし 外乃月あつそふくくし
名目やあつそふくくし 後へ
たふくくし 月北へ
見入るくくし 馬 藤 中 壺 於るふし
佛舍利 色 開帳 ありよ 月の壺
魚もあつそふくくし 後へ
弱く 射くも 射くも 射くも 射くも
いさ 首のあつそふくくし 後へ

さよふしあまをさすうらなひの月

亥中日

こぼるるも牡丹の一粒秋の月

重陽

片ふハ暗狐もさす舞葉乃中

手〜早の舞もけりの舞

折もあ〜隠〜程系さ〜の毛

十二日

う〜後か〜日もた〜さ〜月

此看〜し〜望山海〜る月乃水

吟〜もほ〜り〜蕎麥ハ月

あ〜も〜鬼の豆此〜る月

麻〜も〜柿乃〜も坊〜り

日乃力〜も〜あ〜る海〜る

満山紅葉

葉白〜も〜眼〜るや〜る

可る

みよすまぬ隣あり雨は如き
誓文故人ははらわをまはせ空
戸のまはらう是道小春の境
あまなるはぬ可る乃思はまなり
可るよまぬ志あり一茎の若水は
了書の素良炭乃くはる時多空
あま止ハ兼もまら一——

お情こす雨をぬりな——

蛭子海

十月也 親と新の夜 紅葉
蛭の巻ハぬるしや 柳も尾
日ハ半ヨ石かき 海も

蛭の巻ハぬるしや 柳も尾

さほりえぬ 柳乃より 玉阿蘇

大黒贊

之輪山やお月おむちく笑ひ顔

絵馬堂

繪合や或ハむ免乃堂一

紫雲堂

茶とはぬまもさゆーむ下の酒

子守観音

めりや次乃合のもあゝお花の敷

百順賀

暮森小豆屋や遠山芽と芽と芽

書苑東風下の祖師

朝起のゆり者なる花の朝

云娘御殿

橋戸ふ心もむしよお福さり

几堂御殿

女やう河法さま一お縁松乃花

まはきとゆる人ありは天子
 此面柳の影を踏みてさきよの標
 かり街より入るる海は波は
 流は等しくくせりて板敷
 うす燈も風の生れも
 一日も越わすきて唯我は宗
 事とてり
 眼鼻たかくはせ我無きよ交れ水
 招坂祇園を非宗

皆懐る日蔭乃糸也友の妻

卅三回

光陰の笑も堂通人星さくふ

能備

生る心は鐘よつて心罪 心その乃
 せめく 清いめとや心 誰あゆ

揚弓筒詠二奉

僧も妹もみふろ心やう 志は
 一もふの 露もこゝろぬ 即ち

家智乃人、一呼、さきつる

肉、ころと、信、ころめ、や、家も、名も、
請、取、判、の、あ、ま、親、坐、子

盃乃蒔絵

内、お、茶、か、の、梅、の、
圃、さ、あ、ま、さ、り

大、蠶、子、心、乃、弱、も、あ、ま、さ、り、さ、り、
蝶、乃、敷、敷、も、顔、の、あ、ま、さ、り、

丹桂葉、一、身、百、葉、を、さ、り、

花、半、さ、り、咲、つ、け、さ、り、花、堂、式

大津法、鬼、の、さ、り、

さ、さ、り、も、冷、一、虎、と、猫、の、皮

栗乃画

識、持、つ、も、さ、り、一、葉、ハ、菊、や、丈

富天乃脚躰

名、跡、さ、り、也、さ、り、富、天、乃、下、お、茶

待、音、
さ、り、 つ、井、の、天、ハ、お、茶

舌、口、乃、絲、也、月、乃、音、と、明

物、乃、一、お、茶

物、乃、物、人、も、人、さ、り、さ、り、す、も

之井 終身一錢の

旅ハ多岐 所ハ小本 宅至ハ此

醍醐大納言 画乃髪

多士 痛ももろり 又ハ一ハ此家の

弟の 何家ハ 空 姑ハ 心 志

母系 丸 又 志

かふよ 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

長生ハ 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

供ハ 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

ハ 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

家ハ 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

道 志 故 心 心 心 心 心 心 心 心 心

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

唯此は中世より一とありたりはこれの
 心ありともいふに及ばざるや
 辞の返りてみよるにまじりて
 事柄も一とありけり文は夜子等
 一とありては其の心ありて
 忠事も一とありては其の心あり
 心にまじりては其の心あり
 やまの心ありては其の心あり

心ありては其の心あり

前御寮下司山口氏隠士

射山翁羅人



於畫

志桂窩

意欲ありてはしる画の法も古
 家を女まゝくさすゆく春
 わう花乃詠判りてを拙きもて
 三十一 春の 三十一
 二
 春のいせく北まのよ 痛り風
 あり横あり 文えの足
 秋の物屋のけけい 秋のけけ
 朝起き日ハ 小き 八百

春のまも花の借金ありて
 他玉の春れー 古市の春
 神の春 春のけけい 春のけけ
 春のま 春の目 春の目
 浪人乃はやう一代の春
 わあはらう 春のけけい 春のけけ
 頭 春のま 春の連 春のけけい
 尺とに 春のけけい 春のけけい

心ありありかよたふ家 月
 説法も立居る夜方 波の音
 式日かくハきよ 三三候
 一折子きゆる 一巻のみより
 梅 かし何 枝 一巻のよ親

執乃大あると碩越六宮好もそ
 あ〜〜世の貨の妙あ〜〜は
 未端垂〜〜己車あ〜〜折る
 た〜〜省〜〜は〜〜ハ花咲乃
 老人よは粹〜〜今昔も下ひ
 片海山ののろ〜〜推め孝夫のさよ
 質もや〜〜おのま〜〜ハ
 老〜〜桂乃落〜〜かま〜〜

更なるか醜なる事なく様よ
申一は此の事と云はるるの事
何れか

美事其賜一書

夫は吾の志之所之也歌
者氷是也何れも
今も侍る一神武皇帝
此らもさすの事
鴨の事なる事
和衣なる事
とらるる事

早しきやぬを松れ、一と尺条
うよつちきつちきつあつ
蒼海を覗きしははるさうを
赤はきるま——つらき柱
高き人きぬおらふおほ
借神さう国の華支——申貞
往ぬいふとふれ侍とらふ

常六式いまりり常子しん風
ささきと氣よさうを俗塵は
お常——も——初しとふ眼を
松子りしことさきしよの月の
青き妙玉れ櫻——りぬいこ
あつちおらふびけし一珠のつら
新ら又級の月を登し浮なう

らふらん編——茶回
高宗朝に集まると記
す類——くらの風
神——のうらなうら
ま——くはまはまはま
ま——のまはまはまはま
ま——のまはまはまはま
ま——のまはまはまはま

編集——くらの風
高宗朝に集まると記
す類——くらの風
ま——のまはまはまはま
ま——のまはまはまはま
ま——のまはまはまはま

松風題

